

令和2年度（2020年度）

第66回指導者会議
（日本学生陸上フォーラム2021）

報告書



2021年（令和3年）3月

公益社団法人日本学生陸上競技連合

目 次 頁

I.	はじめに、開会挨拶、提案趣旨	3
II.	プログラム1（報告）：「第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）の報告」	4
	1. 報告	
	2. 質疑応答など	
III.	プログラム2（フォーラム）：「今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―」	5
	1. 大会をどうとらえているか	
	2. 開催時期の問題	
	3. 会場について～平塚での開催をどうする？	
	4. 活性化の具体案	
	5. アジア・パーミット大会への展望	
IV.	まとめにかえて、閉会挨拶	8
V.	提言／要望・・・（付加／追加）	9
VI	資料編	
	プログラム1（報告）：「第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）」	10
	プログラム2（フォーラム）：「今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―」	
	資料1 参考資料の構成とポイント	12
	資料1－1 本テーマの枠組みと検証の視点	16
	資料1－1－1 決勝一覧（男女）（実業団連合ウェブサイトより引用）	17
	資料1－1－2 代表選手アンケート（学生連合ウェブサイトより引用）	18
	資料1－2 実学対抗戦の歩み（59年間の概要）―開催期日、競技場、種目数など―	20
	資料1－2－1 実学対抗戦の歩み（第1回～第59回）・・・注）11項目の図示（グラフ化）	22
	資料1－2－2 オールスターナイト陸上の種目（2015年～2019年）	35
	資料2 カテゴリー別 Placing Score	36
	資料3－1 アジア・パーミット大会を開催するための条件	37
	資料3－2 アジア陸連パーミット申請について	38
	資料4 競技規則からみた三段跳の試技時間―1961年～2019年の推移―	40
	資料5 しおり（テーマ、趣旨・演者ら、主催・期日・会場等、スケジュール）	42
	資料6 第66回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2021）開催要項	43
	資料7 令和元年度・令和2年度 指導者会議運営委員会（構成）	44
	資料8 令和元年度・令和2年度 指導者会議運営委員会及び実学打ち合わせ（開催報告）	44
	資料9 令和元年度・令和2年度 演者とコーディネーターらの打ち合わせ（開催報告）	45
	<謝辞>	45

第66回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2021）

報告書（要旨）

公益社団法人 日本学生陸上競技連合

プログラム1（報告）： 第30回ユニバーシアード競技大会（2019/ナポリ）の報告

報告者：安井年文氏（青山学院大学、第30回ユニバーシアード競技大会日本代表選手団監督、
学生連合：強化副委員長）

期間・場所：2019年7月3日（水）～14日（日）、ナポリ（イタリア）

プログラム2（フォーラム）： 今後の実学対抗戦のあり方を考える—検証と課題—

演者：酒井勝充氏（コニカミノルタ陸上競技部副部長、実業団連合：強化委員長）

栗山佳也氏（大阪体育大学、学生連合：常務理事・強化委員長）

関根春幸氏（学生連合：常務理事・競技委員長）

コーディネーター：船原勝英氏（元共同通信スポーツ企画室長、学生連合：倫理委員長・指導者会議運営委員）

・（総合）司会：障子恵氏（跡見学園女子大学、学生連合：総務委員長・指導者会議運営委員）

I. はじめに、開会挨拶、提案趣旨

<はじめに>

令和2年度第66回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2021）は、2021年（令和3年）3月6日（土）にZoomによるオンライン形式で開催された。プログラム1は「第30回ユニバーシアード競技大会（2019/ナポリ）の報告」、そしてプログラム2は「今後の実学対抗戦のあり方を考える—検証と課題—」のフォーラムであった。

<開会挨拶>（以下：敬称略）

司会 第66回指導者会議を始めさせていただきます。司会を務めさせていただきます障子です。今日の流れとしては、まず松本会長のご挨拶、阿保委員長の提案趣旨、プログラム1、プログラム2、まとめ（阿保）、閉会の挨拶（永井専務理事）という形で進行させていただきます。日本学生陸上競技連合の松本会長よりご挨拶をいただきます。

松本（会長） このところ日本全国は新型コロナに振り回されています。我々もその影響を受けて、昨年はこのフォーラムも開催できず、また実学対抗戦も開催できませんでした。その後、何とか学生のために開催したいとか、いろいろの大会の道筋をつけるためになんとか開催できる方法がないかなどを考え、皆で努力してインカレを開催し、駅伝をやる範囲でやってきました。それらの道

筋をつけられたことと、同時に嬉しかったのは、参加した学生選手が大変嬉しそうな顔をしてくれたということ、併せて練習できなかったのではないかと心配しましたが、大変良い記録を出してくれたことです。関係した皆さんも不自由な中にもある意味で充実感があつた感じがしていると思います。このことは、さきほど理事会でもお話したが、皆がそういう形で努力してきたおかげだと思い感謝しています。

また、このフォーラム（指導者会議）は、一昨年も聞いていてなかなか意味があると感じた。今回の実学の資料等を阿保さんからいろいろな形で示されたものをみても、大変よくこれだけ調べたものだと感じた。私たちはいろいろな仕事をしてきても、いろいろな大きなエポックメイキングとか、足跡とか、どこかの時点でまとめておかないと失われていきます。その時にまとめる方はすぐく努力がいるのです。そのことは必ず後世の人がそれを参考にできるというメリットがあつて、大変意義のあることだと思う。このフォーラムが延期になって、どういう形なら開催できるのか、長い間いろいろ考えながら今日までできました。皆さん、相当のエネルギーが溜まっていると思っています。そういう意味で良いフォーラムになるよう期待しております。敬意を表します。冒頭の挨拶にさせていただきます。

＜提案趣旨＞

司会 阿保委員長に提案趣旨をお願いします。

阿保 簡潔に申します。「しおり」をご覧ください。今回は2つのテーマで行われます。プログラム1は、「第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）の報告」です。安井先生が報告されます。13頁の資料です。そして、プログラム2は、「今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―」です。演者は3名（実業団連合の酒井氏、学生連合の栗山氏、関根氏）、コーディネーターは船原氏です。今回の目的は今後の実学戦のあり方を考えるために、世界陸連ワールドランキング

制度や中長期的な視点に立ったアジアパーミット大会の開催も視野に入れながら、実学対抗戦（第1回～第59回）の検証を行って今後の課題を明らかにすることにあります。12頁の資料です。約2年前、実業団の西川会長らと学連の委員らが数回の会合を重ね、そこでの意見等をもとに各種の資料を収集し、まとめたのが、「参考資料の構成とポイント」などです。学連のホームページには全データが掲載されております。この場では詳細な説明は割愛します。船原コーディネーターが趣旨に沿っていくつかのポイントを考え、演者らに意見を求める方法で進められていくと思います。

II. プログラム I（報告）

第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）の報告

報告者：安井年文氏（青山学院大学、第30回ユニバーシアード競技大会日本代表選手団監督・学生連合：強化副委員長）

司会 プログラム1は第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）の報告です。選手の頑張りは勿論ですが、当日に最高のパフォーマンスができるよう帯同された本連合の先生方のご努力もかなりかなり大きかったのではないかと推察されます。本日は日本選手団陸上競技部監督・本連合強化副委員長・青山学院大学の安井俊文先生にご報告いただきたいと思います。

1. 報告（要旨）

安井 大会は2019年7月にナポリ（イタリア）で開催された。栗山先生がチームリーダーで、私は監督でした。ここでは過去の大会と異なる点について報告したい。選手村がなかったのが、ナポリ大会側から人数減の要請があった。選手村は大型客船でしたので収容人数が限られていた。いつもの大会の2／3くらいの派遣人数だった。バスで競技場に約1時間かかった。試合会場とウォーミングアップ場は違う場所でした。陸上競技場はサッカーのメイン競技場なのでサブトラックがなかった。近くの民間の陸上競技場がサブトラックであったが、バスで15分か20分ぐらいかかった。110mHのフィニッシュはサッカー場だったので、正式なフィニッシュラインがなく、養生テープでラインが

引かれていた。

次の11項目についてはPDFファイルで補足説明をしながら報告された。「前回大会からの強化策」「前回大会からの不安要素」「強化策」「選手選考」「選手団構成」「選手選考（第一優先選考種目（メダル獲得有望種目と人数））」「選手選考（第二優先種目（入賞期待種目と人数））」「選手選考」「競技の総評（メダル獲得数：前回と今回）」「競技の総評（好結果の要因）」「競技の総評（今後の課題：4点）」。（注：各項目の詳細については資料編参照のこと）

2. 質疑応答など

松本（会長） 船を拠点とした競技会は大変だったと思います。良い成績を収めてどうもありがとうございました。インテグリティ教育として何が一番重要だと思いますか。

安井 語学だけではなく、選手としてのモラル、自己主張。海外で自分のやりたいことについて大会運営の方々に尊重して話ができるコミュニケーション能力などはこれから求められるのではないかと。

松本 海外では高潔性、誠実性を前提として主張するようにしておかなければいけないですね。幅

広いわけですね。

永井（専務理事） 安井先生、ありがとうございました。オリンピック大会と違って、ユニバーシアードはびっくりするケースがありますので、その都度対応しなくちゃいけない。選手選考の手順とか、目的をもって選考していたことを説明していただいてありがとうございました。決して密室でやっていることではない。今回もアディショナルスタッフを何人か付けようと思いましたが、全

体枠を引かれてアディショナルスタッフも制限されました。今回は本当に大変だったと思います。次回（中国）のユニバーシアードはスタッフの数が分かりませんが、アディショナルスタッフを増やす方向でJOCに要求していきたいと考えております。

（文献）JOC（2019年11月8日）第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）、日本代表選手団報告書、陸上競技。

Ⅲ. プログラム2（フォーラム）

今後の実学対抗戦のあり方を考える—検証と課題—

演者：酒井勝充 氏（コニカミノルタ陸上競技部副部長、実業団連合：強化委員長）

栗山佳也 氏（大阪体育大学、学生連合：常務理事・強化委員長）

関根春幸 氏（学生連合：常務理事・競技委員長）

コーディネーター：船原勝英氏（元共同通信スポーツ企画室長、学生連合：倫理委員長・指導者会議運営委員）

<フォーラム（要旨）>

船原 この大会は国内ではまれな形式で長く実施されてきた大会です。しかし、このところ曲がり角にきているかなという声があります。最近では競技会数や海外遠征が増えたために、過密日程になっている中で、この大会の位置づけが非常に微妙になってきました。そこで、この機会にこの大会の活性化、さらにアジアパーミット大会への道はどうかということをテーマに、この大会について、実業団、学連、学生らの立場から大胆な発想で論議し、新たな開催方式を見い出す「たたき台」にしたい。

1. 大会をどうとらえているか

・それぞれの立場から現在の開催状況をコメント。 ☆実業団、学連、学生の順に

船原 それぞれの立場でどのように捉えているか。順番をお願いします。

酒井 実業団は、実学戦を持続させて、陸上界を盛り上げていこうと議論を重ねている。実学対抗戦は60年の歴史がありながら、状況に応じて柔軟に対処してきた（配布資料参照）。長年かけて積み重ねてきたものを、今後、どういう形でよりよくしていくのか、皆さんと話していきたい。

例えば、日程、会場、外国人選手の出場、選手が高いモチベーションで大会に参加して好記録につながる方法等について。

栗山 学連のユニフォームを着て、先輩選手に胸を借りて、「先輩、やっつけるぞ」というモチベーションのもとに、大会に出場する。それを「憧れの大会」として学生選手が良い結果を出すということにつながればいいと思う。しかし、他の大会が増えて選手の負担も増し、回を重ねるごとに大会の位置づけが低くなってきたのが現状です。代表に選ばれても辞退することがあった。それを回避する方法（課題）として、場所、選手を惹きつける商品、多くの観客の中で盛り上げる大会など。そして、アジアパーミット大会にしていくための手立てについては今後の課題である。

関根 昔は、選手の「憧れの大会」であり、出場が選手のステータスを上げることに繋がっていた。選手（学連と実業団）がしっかりと競技して良い結果が得られるように競い合う環境の整備。またそれをサポートする環境を競技運営の立場から整備充実すること。多くの観客を動員し、その応援を受けた選手がパフォーマンスを発揮する状況を作ること。競技場関係の整備。記録が出たら世の中に情報を発信していく（レース後にSMS な

ど)。いろいろな付加価値をこの大会につけて、選手のパフォーマンスを後押ししていく状況が作れるような環境整備。

古屋敷（幹事長） 選手を目線と観客の目線から考える。まず実学の選手選考については、主に個人選手権3位以内の選手が出場できる。学生のトップレベル選手が、実業団選手の中でいかに競技力を発揮できるかが、魅力ある競技会につながると思う。次に実学は特に見せる競技会としての性格が強いので、観客の方による優勝者インタビュー、選手サインの配布などの取り組みをしている。しかし、陸上ファンの中でも認知の低い大会であるので、もう少し魅力ある競技会にしていかなければと考えている。

2. 開催時期の問題

- ・過密日程の中で最も適切な時期は？
実業団の実情、学生側のカレンダー事情、視聴会員からの意見

船原 開催時期について話ししていただきたいと思います。

酒井 実業団は、5月に地域連盟の大会、9月に全日本。その前後に五輪や世界陸上、国体等があるので、現実的には実学の7月開催は動かしにくい実情がある。

栗山 現状の競技日程では過密状態。7月開催なら夏休みの海外遠征の選考会にもできる。

関根 観客目線で言うと、昼間は暑い、夜は若干涼しくなる。7月は日も長く、出かけてみようという気になる。観客動員をしやすい。

岡田（総務副委員長） 関東学連に（運営面で）負担がかかっている。実業団からも運営協力をお願いできないか。

酒井 実業団は競技者数こそ多いが、大会運営に携われる事務局の人員が少ない。基本的には実業団の大会は開催地の陸協さんにお任せしている（協力を仰いでいる）というのが実情。そういう事情であるということで、ご理解願えればありがたいです。

3. 会場について～平塚での開催をどうする？

- ・平塚開催のメリット・デメリット
☆複数開催案プランは？

船原 現在の会場と今後の会場については、いか

がでしょうか。

酒井 平塚市、神奈川陸協のおかげで大会を続けてこられた。ただ、三つの柱（選手のモチベーションが上がって良い記録が出る、よい競技運営ができる、多くの観客が集まる）を考えた時、平塚でいいのかどうか。実業団の大会会場を議論する際には、新幹線沿いなど、アクセスのいい大都市または大都市圏がいいという意見もある。

栗山 新幹線沿線の都市を転戦するのがいい。平塚市は大変協力的。他に移るのも失礼になる。今後の盛り上がりを見ると複数都市での開催がいいのでは。

関根 競技運営面的には開催場所を固定してもらった方が助かる（現在の平塚競技場）。一方平塚は、駅から歩くと遠いし、バスに乗る必要があり、ベストとは言えない。そこで新国立競技場はどうか。しかし、いろんなことを勘案する必要がある。

岡田 競技場のサブトラックの有無について

植田（理事） 観客動員について。かつて中学生の陸上教室をやったが、6時までに帰らなくてはいけなかった。実学はかつて憧れの大会だったが、見直しが必要。例えば、何とか対抗という形かどうか、或は形を変えても何かよい時期に開催するとか。

三條（理事） 北信越では、なかなか実学を目指す選手がいない。なぜ憧れの大会でなくなったのか検証する必要がある。

渋谷（理事・関西） 学生時代に1、2回実学に出場した。地方に開催を振り分けるとマンパワー的に厳しい。首都圏の都市などパワーのあるところに固定しては。

片平（理事） 九州学連も日程的に過密。学生が参加できない。地方開催については持ち帰って検討したい。

黒須（理事・東海） 選手の選考面で、よく理解されていない部分がある。

岡田 大会の認知度を上げる意味で賞金を上げた。学生の反応はどうなの？

大西（学連事務局長） 1位選手に10万円の賞金もあった。50回大会の節目の際に、大会をもう止めようとの話もあった。場所（会場）は、地域陸協と行政の協力が必要であり、主催者（実学）だけで一生懸命やっても限界がある。

船原 そうなると、複数都市の持ち回りはなかなか

か難しいということになるわけですね。

岡田 平塚市は、例えば中高生を呼んで、大会を盛り上げようと努力してくれている。

船原 先ほど新国立競技場という名前も出ましたが。現実的に開催が考えられますか。

岡田 まだ使用料が決まっていない。どんな金額設定になるか分からない。ナイターでやると、照明料も高い。JSCでは、スポーツイベントよりもコンサートの方が儲かるという話も出ている。

三條 福井インカレで桐生が脚光を浴びた。場所によっては地方も歓迎される面もあると思う。新国立ではお金がかかる。

船原 福井の場合は、其の後も走幅跳で好記録が出たとか、地元でも盛り上げをいろいろやってくれた気配りがありますね。

岡田 福井のメインスタンドの定員が八千人程度。お客さんがいっぱいでした。あの時、桐生選手は、「お客さんがいっぱいなので、これは頑張らないといけないと思いました」という。そういう意味では、お客さんがいっぱいになるトワイライトが参考になる。

船原 トワイライト（関東学連主催）との一体化はどうか？

植田 トワイライトは織田フィールドから慶応大学に移り、短時間での夕方開催となっている。ビールを飲みながらスタンドで観戦というスタイル。関東インカレや日本選手権である程度いい成績を出した人を選考したので、盛り上がりがあった。

永井立子（関東学連顧問・指導者会議運営委員）

発想は陸上を知らない人に観てもらうため。スポンサーはサッポロビール。観客席は満員で、いい記録が出た。観客の影響もある。

船原 観客席の収容人員はどのくらいか。

永井立子 織田フィールドは観客席が千人ぐらい。慶応大学も千人ぐらい。

4. 活性化の具体案 ☆観客増への試み、
☆映像など露出をどう拡大させるか（学生からも報告を）、☆賞金アップの方策は、
★視聴会員からの意見を

船原 実業団の酒井さん、活性化についてはいかがでしょうか。

酒井 活性化のためには実力のある選手を集める必要がある。世界のトップレベルの選手に参加し

てもらうのもよいと思う。オリンピックや世界陸上などへの出場に向けてという観点では、ポイントランキング制度の中で、よりグレードの高い大会にしていくことで選手のモチベーションアップにつながると思う。ただし、コストの観点がネック。

関根 ランキングポイントの高い大会だと、選手が目向く。アジアパーミット大会などへのグレードアップを。ただし、アジアパーミット大会にするための仕組み（きっかけ、会場、お金、実学の枠組み等）を考える必要がある。

船原 次のテーマとして酒井さんからご説明いただく予定でした。アジアパーミット大会にグレードアップするためにはどういうことが必要か。今、それに向けての話がありました。次に実業団として考えていること（大会スポンサー確保、選手滞在費用、大会の盛りあげ方）について、いかがでしょうか。

酒井 人気や認知度等の関係からか協賛スポンサーがなかなか集まらない。駅伝は比較的スポンサーが付きやすいが、他の大会は苦労しているのが実情。

船原 記録を出した時に賞金を出す方法もあるが。

関根 日本新が出た場合に追加で賞金を出すアイデアがあっても、スポンサーがつかない。

船原 五輪直前のウォームアップ大会としていかがですか。

岡田 ウォームアップミーティングは、個人選手権で話があったが、コロナ禍で止まっている。セイコーグランプリと合体してはどうか。前日に実学をやるという方法もある。

船原 SNSでの発信について、学生役員はどう考えているか。

古屋敷 認知度を上げるには、学生に大会への興味を持ってもらう必要がある。SNSでの情報発信面で、湘南ケーブルテレビの協力もある。インスタグラムなど身近なものを活用していきたい。
大西 日本陸連から後援してもらい、10万円を支援してもらっている。日本陸連からの発信力も必要となる。

岡崎（理事） 選手目線から言うと、ポイント制も賞金も魅力的ですが、モチベーションが高まる大会にしてほしい。発信力の高い人を中心に、一般の人に観てもらうとか。ただ強いだけでなく個性のある選手も必要。

岡田 吉本興業が実業団の選手を抱えている。関ジャニや元選手の武井壮さんら芸能人を招けば人を呼べる。

船原 武井壮さんは元日本チャンピオン（十種競技）です。呼びかけると、応えてくれるかもしれません。1つの案になるかもしれません。

5. アジア・パーミット大会への展望

☆ワールドランキング制、☆アジア各国との連携、★視聴会員からの意見を

船原 このテーマについては、先ほど関根さんから話が出ました。アジア各国との連携とか、大会をグレードアップするためには何が必要かについて、いかがですか。

栗山 開催競技場も絡んでくる。ポイントランキングの高い大会へのグレードアップにつながるよう条件を整える必要がある。

船原 関根さん、競技場、アジアパーミットへのグレードアップ、競技会運営など総轄的な話をさせていただければありがたいです。

関根 箱物、人を揃えるのは当然。選手のランキングポイントとは別に、競技会もランク付けされる。選手の高いパフォーマンスがないと、そのグレードを維持できない。大会の質を維持しなければならない。アジアパーミットを目指すにしても、5年、10年のサイクルで考えないといけない。日本で1、2位を争う大会でないといけない。

船原 今日の議論はたたき台の第一歩。ここで着地というわけにはいかないが、何か見えてきたものがある。最後に関根さんが指摘された、中長期的な視点に立って他の競技会や他の競技団体との間の全体的な調整、大会コンセプトなどについて総合的に考えていかなければいけない、ということを確認しました。

有吉（関東学連会長・日本学連副会長） 非常に有意義なフォーラム、ありがとうございました。特に実学というものを、これだけしっかり考えていく、いい勉強になりました。実学は、平塚市（競技場）といい関係を保っているが、大会を中長期的にどこでやるのが課題となっている。今日は、船原さんの名司会の中で、陸上競技をしっかり、きっちりとできる街（市）とスタジアムについて、そういったものが私たちの力だけではないかと思っています。皆で探っていく手がかりが、

そういった課題を感じました。感想です。

IV. まとめにかえて、閉会挨拶

<まとめにかえて>

司会 フォーラムのまとめを阿保委員長にお願いします。

阿保 今回のフォーラムは、はじめてのオンライン形式でした。プログラム1の安井先生の報告、ありがとうございました。そしてプログラム2については活発なご意見を多数戴きました。船原コーディネーター、演者の酒井さん、栗山さん、関根さん、そして会場の皆さん、ありがとうございました。

さて、今、このタイミングで、90分余の討論内容をまとめるのは、私には不可能です。そこで、例年と同様に、報告書を作成し、日本学連のホームページに掲載させていただきます。

船原コーディネーターが発言されたように、今日の討論については決定事項ではありません。たたき台としてのいいアイデアが出ればそれでよいと思います。念のため申し添えておきます。しかしながら、本日の討論内容が、選手やコーチにとって、競技場にとって、競技団体にとって、街（市民）にとって、行政にとって、今後の魅力ある実学対抗戦とはどういうものであるかを考える際の参考になれば幸いです。船原コーディネーターらの言葉を借りると、これらの要因に関わるシステム構築が今後の課題の一つであると思います。学生さんは若いですから、今後、良いアイデアをどんどん出してシステム構築の策定とその実現に向かって頑張ってくださいと、大きな展望が開けると思います。よろしく願いいたします。

最後になりましたが、Zoomによるオンラインの準備・運営については、私は全くの素人でしたので、日本学連の学生幹事の皆さま（古屋敷幹事長、公文副幹事長、渡辺副幹事長、崎井常任幹事）のご協力によって可能となりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

<閉会挨拶>

司会 それでは閉会挨拶は永井純専務理事にお願いいたします。

永井 挨拶の前に、神奈川大学の犬後先生からの

メッセージです。先月のマラソン大会で日本記録を樹立した鈴木健吾君からのメッセージでもあります。彼は大学生の時に、オランダのナイメーヘンへの派遣、台湾（台北）のユニバーシアード（ハーフマラソン）に選出、東京マラソンでは準エリートからエリートに推薦されて2時間9分台で走りました。本当に日本学連についてはいろいろな経験をさせて戴いて、この日本記録に結びついたのではないかと、というお礼のメッセージです。

閉会の挨拶です。長時間ありがとうございました。2年間温めたテーマでした。阿保先生、ありがとうございました。

1964年の東京オリンピック前後にこの大会に選手として参加しました。その後は指導者として学生をこの大会に参加させました。この頃から、小田原の方だと場所が悪いのかなという気がしました。サブトラック一周が80m位です。大会が非常に多くなってきました。

後半は運営責任者としてやっておりますが、一番頭が痛いのはどうすれば活性化するかということでした。いろいろの指摘がありましたが、集客については、河野会長の影響があるのか、平塚市が非常に協力していただいておりますが、地理的に場所が良くない。端的に言うと人が集まらないから。もし場所の変更があるとすれば、懐具合から言うと、低価格な競技場になると思います。国立競技場はとてもじゃないけど、無理です。それ

からもう一つは、神奈川陸協の審判の人達がすごく高齢化しているので、個人選手権と実学を頼むというのも何か気が引けることもあります。

地区インカレと個人選手権から何人ずつ選ぶかについては決まっております。2020年までということで賞金を出しておりました。1位10万円、2位3万円、3位2万円です。これを引き続きやるのかどうか。賞金が出る前は、学生幹事が出場してくださいと声掛けしても、半分は断られ、次の人をお願いした。どうしても競技力は低下します。ところが賞金を出し始めたら誰一人として断る人はいなかった。引き続きやりたいたいと思っております。本来だったら昨年で60回大会になりますが、このように歴史が長くなってきた大会ですから、また復活させていきたいと思っております。いろんな観点からお知恵をいただければと思っております。そういうことで今日は本当に長時間ありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。以上でございます

司会 永井先生、ありがとうございました。長時間、皆様、お疲れ様でした。

以上をもちまして、第66回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2021）を終了させていただきます。

V. 提言／要望・・・＜付加／追加＞

今回の指導者会議（フォーラム2021）における意見や質疑応答などから、次の提言／要望が考えられる。

1. プログラム1（ユニバーシアード大会）

「競技の総評（今後の課題）」で示されている課題4点はとても重要である。

次回の第31回ワールドユニバーシティゲームズ（2021／成都）に向けて、事前に、各項目の目標設定・計画・実施・評価の視点を検討し、具体案を策定して実施して欲しい。尚、課題によっては学生選手へのアンケートも含まれる。

2. プログラム2（実学対抗戦）

アジアパーミット大会を実施するかどうかについては、その可能性と限界を知るためにも、そのトータルシステム構築（諸要因とその構造化）とその実現のための戦略・戦術を検討して欲しい。そのための一施策として同大会に関する意識調査（学生競技者、学連幹事、指導者ら）の企画と実施が望まれる。

以上

第66回指導者会議 日本学生陸上フォーラム

第30回ユニバーシアード イタリア・ナポリ大会報告



日本選手団 陸上競技監督
安井年文

強化策として

@日本陸連、各地区学連、各大学での合宿や試合遠征による強化に委ねている

@日本学連として派遣している海外試合は長距離種目を中心に行っている

選手選考について

@メダル獲得有望種目の確認と具体的な個人名の確認をし、順次、仮決定を行う。

第一優先選考種目(メダル獲得有望種目と人数)

男子
4×100mR (100m, 200m) : 4名, 10000m : 2名, 110mH : 1名, ハーフマラソン : 3名, 棒高跳 : 1名, 20km競歩 : 3名, 走幅跳 : 1名, **計 15 名**

女子
4×100mR (100m, 200m) : 4名, 5000m : 2名, 10000m : 2名, ハーフマラソン : 3名, 円盤投 : 1名, やり投 : 1名, **計 13 名**

前回大会からの強化策として

前回大会 (2017 / 台北) では陸上競技は **国別メダル獲得数において1位**であり、**金メダル7, 銀メダル2, 銅メダル7**、**入賞 (第4位-第7位) 10**。



学生記録2という過去最大の好成績

選手選考について

@基本的に過去三大会の記録から算出された3位、6位を目安として選考

@メダル獲得の期待の高い基幹種目から優先的に選考

選手選考について

@第一優先選考種目の入選を行った後、続いてメダル、または入賞の期待できる種目の確認と具体的な個人名の確認をし、順次、仮決定を行う。

第二優先種目(入賞期待種目と人数)

男子
400m (2名), 800m, 1500m, 110mH, 400mH (2名), 3000mSC, 棒高跳, 走幅跳, やり投, 10種競技, 4×400mR * **上記の中から10名選出**

女子
800m, 100mH, 400mH, 走幅跳, 砲丸投, やり投 * **上記の中から3名選出**

前回大会からの不安要素として

@極東アジアでの開催からヨーロッパ開催になることによるヨーロッパ諸国の積極的な参加

@前回よりも少数の日本選手団構成による取りこぼしの許されない状況 (選手もスタッフも少数に)



* 特に競歩、ハーフマラソンの団体は3人出場で3人の合計タイムでの団体戦。前回は4人出場中3人の合計タイムでの勝敗決定

選手団構成

@前回大会 選手38名 スタッフ14名



@今回大会 選手41名 スタッフ14名

前回実績を考慮して選手は増員した

選手団構成

@前回大会 選手38名 スタッフ14名



@今回大会 選手41名 スタッフ14名

前回実績を考慮して選手は増員した

選手選考について

@選手入れ替え
男子200mで選出された選手がトレーニング中のケガにより、次点の選手と入れ替えを行った

@選手追加
男子十種競技で選考に予想外が出され、1名追加

競技の総評について

今後の課題

- @不測の事態に臨機応変に対応する能力（選手 & コーチ）
- @役割にあったスタッフ人数の配分
- @国際試合で実力を発揮できる選手のインテグリティ教育
- @国際試合で実力を発揮できるスタッフのインテグリティ教育

競技の総評について

前回大会	今回大会
金メダル:7	金メダル:8
銀メダル:2	銀メダル:6
銅メダル:7	銅メダル:5
入賞:10	入賞:15
メダル獲得数 26	メダル獲得数 34

*前回大会 27

競技の総評について

好結果の要因として

- @過去3大会の優勝記録3位記録、6位入賞記録という物差しの設定
- @本大会での記録の正当な評価
- @日本人選手の競技力の正当な評価

*本文中「記録簿」（※※※）は本大会での記録は順位重視のため低調である、自己ベスト記録での評価を以て選手は評価されない

資料1 参考資料の構成とポイント

はじめに

昨年の日本学生陸上フォーラム2020は新型コロナウイルス感染症拡大防止等の理由から中止となりました。今回のフォーラム2021は、昨年度のテーマを再度取り上げて行います。尚、テーマについては少し変更をしましたが、目的や方法、各種資料については昨年度の中間報告書（資料編）を活用させて戴きました。

- ・フォーラム2021のテーマ：「今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―」

開催要項（2021-2-2） <https://www.iuau.jp/iinkai/sidousya/66kaisaiyoko.pdf>

- ・フォーラム2020のテーマ：「2020東京五輪後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―」

注）日本学生陸上競技連合（2020年3月）第65回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2020）の中間報告書（資料編）、35頁。

資料編（2020-4-10） [https://www.iuau.jp/iinkai/sidousya/houkokusyo\(2020youyaku\).pdf](https://www.iuau.jp/iinkai/sidousya/houkokusyo(2020youyaku).pdf)

本テーマに対するアプローチ方法

- 1) これまでの実学対抗戦（第1回～第59回大会）の検証と課題・・・・・・・・・・アプローチ1
・経営過程（計画・実施・評価）の視点から、できる範囲で、検証する。
例えば：① 第59回大会、
② 第1回～59回大会、
③ 第55回～59回大会（2015～2019オールスターナイト陸上）
- 2) 今後の実学対抗戦のあり方について
①（短期）：世界陸連ワールド・ランキング制度と社会変容等への対応（適応）・・・アプローチ2
②（中長期）：現状からアジアパーミット大会開催までの重点目標（戦略的目標）等・・・アプローチ3

<実学の打ち合わせ>

実業団連合（一般社団法人 日本実業団陸上競技連合）と学生連合（公益社団法人 日本学生陸上競技連合）は、日本学生陸上フォーラム2020のテーマ、即ち「2020東京五輪後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―」に関する打ち合わせを2019年に4回行った（5月12日：新横浜駅喫茶店、7月11日：実業団連合事務局、7月29日：平塚競技場会議室、11月12日：学生連合事務局）。

《謝辞》打ち合わせ日によっては実業団連合の会長、理事長、事務局長、各委員長らのご出席があり、貴重な資料やご意見を戴きました。この場をお借りして御礼を申し上げます。尚、本稿では打ち合わせ出席者の氏名等は割愛させて戴きました。

1. 資料（その1）

打ち合わせ（5月12日）：「これまでの実学戦の実際と今後の実学戦のあり方について」をテーマとして意見

交換が行われた。その記録（議事録）の内容をキーワード（or キーワード+α）で示し、次に上述のアプローチ1, 2, 3と関係付けると次のようになる（順不同）。

資料（その1）とアプローチ1・2・3の関係（重複：有り）

アプローチ1： これまでの実学対抗戦の検証と課題

これまでの実学戦の実際、大会の検証の視点（計画・実施・評価）、選手へのアンケート（2019年実学戦）

アプローチ2： 世界陸連ワールド・ランキング制度と社会変容等への対応（適応）

誰のためか（トップか、次か）、IAAFのポイントランキング制度、大会のグレード（例えば、E, F等）、世界ランキング日本人選手・種目別分普一覧、日本陸連・実業団・学連の関係、トラック&フィールド大会、5000m・10000m・ハーフマラソン、実業団を支える駅伝3大会への「集中」、スポンサー、大会共催+ウエルネス活動 など。

アプローチ3： 現状からアジアパーミット大会開催までの重点目標（戦略的目標）

次回大会で新たな試み、中長期と短期（2つの軸で）、IAAFのポイントランキング制度、大会のグレード（例えば、E, Fなど）、アジアパーミット大会

注) 国際陸上競技連盟 (International Association of Athletics Federations) は、2019年11月より世界陸連「(World Athletics) ワールドアスレティックス」の組織名称に変更した。(日本陸連2019.11.22(金))

日本陸連公式サイト <<https://www.jaaf.or.jp/news/article/13372/?category=99>>

資料) 実業団連合 (2019-5-12) 事業戦略企画委員会資料：今後の進め方の前提など (全12頁)

2. 資料（その2）： 5月12日以降の打ち合わせ、資料、意見等（時系列で記載）

- (1) 学生連合（会長挨拶：社員総会、2019-6-15）。4点：「強い選手の育成：伸びる時期、選手強化」「将来を見据えた優秀な指導者育成」「会員数の維持/増加への努力」「ガバナンスに関わるが、適切な運営」
- (2) 実業団連合と学生連合の方針や目的などに関連して（引用：学生連合議事録：2019-6-18）
 - ・各種競技大会の組織化について・・・諸大会の中で「実学戦」の位置づけはどこか。その意義・目的とは？
 - ・実業団連合と学生連合の要望とは何か。両者の共通点や相違点とは何か。
- (3) 意見・要望（学生連合専務理事（引用；2019-7-11メール） 4点：① 学生の頃の夢の大会がもう一度実現してくれるとうれしい。② 実業団も学生もその時の超一流が出場してくれるか。③人を呼べる場所であるか（都心に近い場所）。④世界陸上と五輪はグレードとポイントが重要で、選手もそちらを見ているので、アジアパーミット大会なども有効か。
- (4) 打ち合わせ（2019-7-27：第59回大会当日）の意見など(順不同)
 - ・海外選手の受け入れ 2020~202X 実学対抗戦 ⇔ 海外選手（本人の実費で）
202X ⇔ 海外選手（選手に一部補助金を）
 - アジア隣国（台湾、香港、中国、韓国等）が対象か。今回の実学戦に台湾選手がオープン参加（110mH）
 - ・開催時期、種目、大会盛り上げ方
 - ・アスリート目線で競技会を考える。
 - ・戦略的目標の1つとして： 現状（グレードF） ➡ グレードC、且つ種目限定
 - ・アジアパーミット大会は、1~2年後ではなく、もっと数年先か。
 - ・「〇〇実学対抗戦実行委員会」等の名称で企画等を行う・・・（現状：実業団は〇〇委員会、学連は無）
（注：例えば「グレードE」or「C」にアップするための「〇〇実学対抗戦委員会」の設立が必要）
 - ・実業団の仕組み： ベースは「長距離」⇒「T&F」

- ・ハーフマラソンのシリーズ化はどうか

(理由：グレードアップそしてIAAF、JAAF、実業団、学連が共存できるようにするために)

(フォーラム2020では、T&Fが中心であるが、ハーフマラソンについても話題の1つに！)

- ・「オールスター陸上(実学対抗戦)」と「トワイライトゲームズ(関東学連)」の両大会について

(選手(国内・国外)にとって2日間連続大会の魅力とは何か ⇒ 例えば、2回挑戦可能！)

(5) アスリート(社会人、学生) / コーチらが願う競技大会とは？ (引用：2019-7-29 資料より)

1) ほぼ同時期の開催大会(例えば、IAAF/AAA/JAAF/学生連合/地域陸協など)が複数あれば、アスリートの選択の視点：①記録のできる競技環境、②ポイント(IAAF)の大小、③報奨金の有無、④その他。

2) ①と③は実学戦主催者でコントロール可能であるが、②はIAAFとJAAFの管理下にある(組織間関係)。

そこで、実学戦主催者は「②大会のグレード」を少しずつ上げていく目標を設定し、それに合った具体的施策(人・物・金など)を検討して実施するべきであろう。(参考資料：第64回指導者鍵報告書2019)

例えば、**重点目標**：(現在) F ⇒ E ⇒ D ⇒ C ⇒ (長期的には) B (アジアパーミット大会)

(6) 実学対抗戦(第59回大会)の反省会資料より引用(2019-12-18)・・・項目のみ記載した

競技会運営(神奈川陸協の運営協力、インターネット利用、広報における日本陸連(後援)の利用、実業団・学生チームの運営サポート、諸室利用、報道(学連担当)、問題点：サブトラック無し、競技時刻変更、賞金、プログラム制作、見どころの執筆について(変遷)、レーンの割り振り(引継ぎ事項)、リレーについて、選考について(学連)、60回大会(記念大会とするか)、61回大会以降の対応(展望)：5点、参考(変遷)：7点)

(7) その他：走幅跳、三段跳等の人数(6名中1～2名棄権の場合)と試技時間の関係。ベスト記録の達成は？

⇒ 8名参加の理由の1つとして

<参考資料> 競技規則(三段跳・走幅跳)の推移

資料4 競技規則からみた三段跳の試技時間—1961年～2019年の推移—

注) 資料(その2)とアプローチ1・2・3の関係について・・・割愛

3. 資料(その3)・・・アプローチ1、アプローチ2、アプローチ3、その他

<アプローチ1>・・・これまでの実学対抗戦の検証と課題

1) 資料1-1 本テーマの枠組みと検証の視点

横軸：実学対抗戦のあゆみ(第1回：1961～第59回：2019) ⇐イメージのみ

縦軸：第59回(2019)の実態(実際)に限定して・・・視点：経営過程(計画・実施・評価)

実学対抗戦の反省会資料(2019-12-18)・・・資料(その2)参照

打ち合わせ等について・・・資料(その1)と資料(その2)参照

資料1-1-1 決勝一覧(男女) (実業団連合ウェブサイトより引用)

資料1-1-2 代表選手アンケート(学生連合ウェブサイトより引用)

2) 資料1-2 実学対抗戦の歩み(第1回～第59回)

横軸：計画・実施・評価・・・次の項目；

①開催期日、②競技場、③種目数(男女)、④出場者数合計(合計)(男女)、⑤正規出場者数(男女)、

⑥オープン参加者数（男女）、⑦種目別実施回数（男女）、⑧1種目当りの参加選手数、⑨実施種目の特徴、⑩決勝一覧（第59回大会限定）、⑪対抗成績（総合、男女）、⑫日本記録（男女、全体）、コメント。

縦軸：実学対抗戦の歩み（第1回～第59回）： 各大会のデータ（数値）

・出所：実学50年史、学連便覧、学連会報、大会プログラム、公式サイト（実業団連合、学生連合）等

3) 資料1-2-1 実学対抗戦の歩み（第1回～第59回）…注）上記1項目の図示（グラフ化）

4) 資料1-2-2 オールスターナイト陸上の種目（2015～2019）

最近の2015年～2019年大会の実施種目に注目した資料である。

・視点：例えば、経営過程（計画・実施・評価）の分析から、
大会運営等の改善 and/or 今後導入すべき種目の有無

<アプローチ2>・・・世界陸連ワールド・ランキング制度と社会変容等への対応（適応）

打ち合わせ等について・・・資料（その1）と資料（その2）参照

資料2 カテゴリー別Placing Score と大会カテゴリー（T&F）・・・引用：JAAF資料

世界陸連ワールド・ランキング制度について

<日本陸連公式サイト：<https://www.jaaf.or.jp/athletes/world-ranking/>>

<IAAFランキング制度概要：<https://www.jaaf.or.jp/pdf/athletes/world-ranking/IAAF-point-ranking.pdf>>

参考）<世界陸連ワールドランキングカレンダー：<https://www.worldathletics.org/world-ranking-calendar>>

<アプローチ3>・・・現状からアジアパーミット大会開催までの重点目標（戦略的目標）

打ち合わせ等について・・・資料（その1）と資料（その2）参照

資料3-1 アジアパーミット大会を開催するための条件・・・引用：JAAF資料

資料3-2 アジア陸連パーミット申請について・・・引用：JAAF資料

<その他> 参考資料

資料（その2）の7）に関連。

1) 競技規則（三段跳・走幅跳）の推移について

参照 資料4 競技規則からみた三段跳の試技時間—1961年～2019年の推移—

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイダンス等について

1) 陸上競技活動再開のガイダンス 競技会開催について（第3版/2021年1月15日改訂）

JAAF資料（10頁）：https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202006/11_151442.pdf（参照 2021年1月18日）

2) 障子 恵「新しい生活様式での競技会運営について」（2020年10月8日）、日本学生陸上競技連合 会報第159号、p.31.

「今後の実学対抗戦のあり方を考える—検証と課題—」

1部(検証:1~59回大会)							2部(今後のあり方と課題)					
実学対抗戦の歩み (第1回:1961~第59回:2019)							第60回 20 .. 中止	第61回 21 .. 東京五輪	第62回 22	第63回 23		
検証の視点 → ↓ ↓ <縦方向> アイテム (開催)要項...計画	横方向 59年間の歩み(成果や特徴等は?) 縦方向:とりわけ第59回2019の実態 (計画・実施・評価:出来る範囲で)											
	カテゴリー I (開催)要項...計画 主催、後援、運営協力、協賛、期日、会場、競技種目、参加基準、選手団構成、ナンバーカード、競技について、得点・表彰、宿泊・旅費、ドーピングコントロール、個人情報取り扱いについて、その他 文献:2019日本学連便覧											
II 競技成績(競技結果)... 評価 1、競技成績 第59回大会(2019)の決勝一覧 競技者アンケート(学連ウェブサイト引用) 注) アジア選手権結果(2019、ドーハ) 注) 世界選手権結果(2019、ドーハ) 注) IAAFランキング制度導入(2018~)												
III 条件... 実施 1. 組織体制 実学戦実行委員会 (第59回大会2019) 実業団連合 学生連合 反省会(2019-12-18)												
2. 競技場 主競技場 練習場 ハンマー投げ												
3. 競技運営 例えば、 ・競技日程(種目):トラック&フィールド ・競技規則・競技注意事項 ・審判員・審判 ・競技会の盛り上げ方 ・事前準備/打ち合わせ ・その他												
4. 情報(提供、報告等) 上記I、II、III、の関係												
5. 諸経費(会計) 実学戦の諸経費												
6. 時間 上記I、II、III、の関係 (いつ:タイミング、回数)												

文献:公益社団法人日本学生陸上競技連合(2019)2019学生陸上競技連合便覧、p.56.

文献:日本実業団陸上競技連合/社団法人日本学生陸上競技連合(2010)秩父宮賜杯実業団・学生対校陸上競技大会50年史

文献:日本実業団陸上競技連合・日本学生陸上競技連合(2019)秩父宮賜杯2019オールスターナイト陸上(第59回実業団・学生対抗陸上競技大会)

資料1-2 実学対抗戦の歩み(59年間の概要)—開催期日、競技場、種目数、出場者数、対校成績、日本記録など—

資料1-1-1 第59回大会(2019年)の決勝一覧(記録、順位等)

資料1-1-2 実学対抗戦に関する競技者アンケートは、学生連合ウェブサイトより一部引用した。

秩父宮賜杯 第59回実業団・学生対抗陸上競技大会

種別	種目名	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子	100m	坂井 隆一郎 10.29/+1.1 学生・関西大	デーデーブルノ 10.32/+1.1 学生・東海大	岩崎 浩太郎 10.39/+1.1 実業団・ユティック	宮本 大輔 10.45/+1.1 学生・東洋大	大瀬戸 一馬 10.54/+1.1 実業団・安川電機	所 京佑 10.77/+1.1 実業団・瑞穂市役所
	400m	ワルムジュリアン 46.08 実業団・富士通	小淵 瑞樹 47.01 実業団・登利平	若林 康太 47.31 学生・駿河台大	吉津 拓歩 47.33 学生・東洋大	藤堂 蒼志 47.82 学生・中央大	佐藤 拳太郎 48.06 実業団・富士通
	1500m	Daniel Kayiook 3:46.88 学生・桜美林大	本井 義明 3:47.34 学生・京都産業大	千葉 直輝 3:49.00 実業団・SGホールディングスグループ	岩崎 祐也 3:54.70 実業団・大阪ガス	寺嶋 漢一 3:57.61 学生・帝京大	田中 匠瑛 4:01.00 実業団・盛岡市役所
	110mH (1.067m)	高山 峻野 13.30/+1.9 実業団・ゼンリン	NNR NGR PB 泉谷 駿介 13.60/+1.9 学生・順天堂大	石川 周平 13.64/+1.9 実業団・富士通	河嶋 亮太 13.78/+1.9 学生・法政大	樋口 陸人 13.80/+1.9 PB 学生・法政大	豊田 将樹 51.35 学生・法政大
	400mH (0.914m)	高田 一就 50.25 学生・法政大	PB 真野 悠太郎 50.58 学生・名古屋大	大林 督享 50.82 実業団・石丸製麺	松下 祐樹 50.97 実業団・ミスノ	野澤 啓佑 51.34 実業団・ミスノ	
	4x100m	学生 坂井 隆一郎 関西大 石川 周平 富士通 宮本 大輔 東洋大 大瀬戸 一馬 安川電機 松尾 隆雅 東洋大 長田 拓也 富士通 デーデーブルノ 東海大 岩崎 浩太郎 ユティック	NGR 39.31 実業団	NGR 39.83 実業団			
	走高跳	衛藤 昂 2m21 実業団・味の素AGF	滋谷 蒼 2m18 学生・新潟医療福祉大	PB 佐藤 凌 実業団・東日印刷		2m15 瀬古 優斗 学生・中京大	2m10 真野 友博 実業団・九電工
	三段跳	山下 祐樹 16m15/+2.8 実業団・茨城競技力本部	上坂 樹稀 15m81/+2.7 学生・国土館大	竹之内 優汰 15m77/+4.3 学生・順天堂大	齋田 将之介 15m63/+2.9 実業団・ユメオミライ	泉谷 駿介 15m62/+1.6 学生・順天堂大	
	砲丸投 (7.260kg)	村上 輝 17m47 実業団・日本体育施設	PB 中村 太地 16m96 実業団・ミスノ	佐藤 征平 16m86 実業団・新潟7MCレックスARC	岩佐 隆時 16m80 学生・東海大	羽生田 智 16m37 学生・筑波大	戸澤 廣哉 16m06 学生・中京大
	ハンマー投 (7.260kg)	盛 訓熙 66m65 実業団・小林クリエイト	吉野 健太郎 66m47 学生・大阪体育大	柏村 亮太 66m20 実業団・ヤマダ電機	赤穂 弘樹 65m75 実業団・まなびや園	中川 達斗 63m66 学生・九州共立大	木村 友大 63m54 学生・九州共立大
100m	土井 杏南 11.54/+1.7 実業団・JAL	和田 麻希 11.57/+1.7 実業団・ミスノ	湯浅 佳那子 11.77/+1.7 学生・日本体育大	永野 真莉子 11.84/+1.7 実業団・デンソー	福田 真衣 11.92/+1.7 学生・日本体育大	山田 美来 12.12/+1.7 学生・日本体育大	
400m	松本 奈菜子 54.31 実業団・東邦銀行	岩田 優奈 54.68 学生・中央大	川田 朱夏 54.73 学生・東大阪大	佐藤 日奈子 55.53 実業団・七十七銀行	小林 菜由 55.67 実業団・茨城競技力本部	竹内 まり 56.53 学生・早稲田大	
1500m	樺沢 和佳奈 4:27.91 学生・慶応義塾大	4:28.67 竹内 麻里子 実業団・愛媛銀行	4:29.27 八田 ももか 学生・拓殖大	飯野 摩耶 4:32.14 実業団・埼玉医科大学G	菅原 彩乃 4:33.60 学生・びわこ学院大		
100mH (0.838m)	寺田 明日香 13.07/+1.3 実業団・パナソニックグループ	NGR SB 福部 真子 13.18/+1.3 実業団・日本建設工業	鈴木 美帆 13.26/+1.3 実業団・長谷川体育施設	藤森 菜那 13.35/+1.3 学生・明治大	金井 まるみ 13.64/+1.3 学生・青山学院大	小林 歩未 13.91/+1.3 学生・筑波大	
400mH (0.762m)	林 理紗 58.93 学生・立命館大	PB 芝田 陽香 59.12 実業団・ミズノグループ	梅原 紗月 59.64 実業団・住友電工	王子田 萌 1:01.13 実業団・NDソフト	村上 夏美 1:01.57 学生・早稲田大	小林 茜 1:02.35 学生・福島大	
4x100m	学生 福田 真衣 日本体育大 杉山 美貴 デンソー 山田 美来 日本体育大 土井 杏南 JAL 湯浅 佳那子 日本体育大 和田 麻希 ミズノ 小林 歩未 筑波大 永野 真莉子 デンソー	46.85 実業団	59.57 実業団				
棒高跳	竜田 夏苗 4m20 実業団・ニッパツ	NGR 那須 真由 4m10 実業団・RUNJOURNEY	NGR 安宅 伽織 3m70 学生・日本体育大		3m50 水上 真里 学生・中央大		
走幅跳	秦 澄美鈴 6m25/+3.0 実業団・シバタ工業	6m12/+1.7 平加 有梨奈 実業団・ニッパツ	6m11/+4.2 横村 優 実業団・オリコ		6m08/+2.9 竹内 真弥 学生・日本女子体育大	6m08/+3.3 村上 南帆 学生・九州共立大	
円盤投 (1.000kg)	藤森 夏穂 51m62 実業団・福井県森林協会	SB 神田 千穂 50m69 学生・新潟医療福祉大	半田 水晶 49m74 学生・筑波大	小松 真琴 47m44 学生・筑波大	清水 麻衣 46m47 実業団・アサイ	山本 実果 44m61 実業団・コンドーテック	
やり投 (0.600kg)	桑添 友花 54m90 学生・筑波大	52m82 佐藤 友佳 実業団・ニコニコのり	武本 紗栄 52m26 学生・大阪体育大	上田 百寧 51m78 学生・福岡大	助永 仁美 51m15 実業団・オークワ	山内 愛 47m63 実業団・長谷川体育施設	
4x400m	学生 吉津 拓歩 (M) 東洋大 片山 雄斗 (M) ユメオミライ 岩田 優奈 (W) 中央大 松本 奈菜子 (W) 東邦銀行 川田 朱夏 (W) 東大阪大 佐藤 日奈子 (W) 七十七銀行 若林 康太 (M) 駿河台大 小淵 瑞樹 (M) 登利平	3:23.83 実業団	3:24.40 学生				
総合得点	実業団 203.5点	学生 195.5点					
男子総合得点	学生 103.5点	実業団 95.5点					
女子総合得点	実業団 108点	学生 92点					

凡例 (NNR: 日本新記録/ NGR: 大会新記録/ SB: シーズンベスト/ PB: パーソナルベスト)

資料1-1-2 代表選手アンケート

2019 オールスターナイト陸上 (秩父宮賜杯 第59回 実業団・学生対抗陸上競技大会)

学生連合HP <<http://www.iuau.jp/ev2019/2019all-star/2019all-star/2019all-star.html>> (参照日 2019-10-12)

質問項目： Q1 主な大会・国際競技会等の実績、Q2 目標としているライバルとしている選手は？ Q3 オフの日の過ごし方は？ また熱中していること・ものは？ Q4 あなたの勝負曲は？ Q5 今後の目標、Q6 **出場に当たっての意気込み**

日本学生陸上フォーラム 2020 では、「Q6 出場に当たっての意気込み」の回答を引用した (尚、氏名や性別、所属等は割愛した)。

代表選手アンケート【実業団】

- ・ 平塚はPBを出した相性のいい競技場です。SBを更新できるよう頑張ります。
- ・ 選出していただいたことに感謝して、ゴールまで走り切りたいと思います
- ・ 去年はいい走りができなかったので、今年の実業団選手としてしっかり走ります。
- ・ 常にベストな走りをしていきたいです。
- ・ 出場するからには優勝を。学生の選手たちの勢いが凄いです、実業団選手としての意地を見せられればと思っております。
- ・ ずっと出場しなかったレースなのでこのレースを楽しみたいです
- ・ 自己記録更新を目標に頑張ります
- ・ 優勝目指して頑張ります。
- ・ 出場させていただき、ありがとうございます。ホクレン網走大会 5000m からすぐのレースでタイトな日程ですが、最後まで粘って自己ベストを更新します。また、学生に負けないようにしっかり準備して臨みたいと思います。
- ・ 自己ベストを更新できるように頑張ります。
- ・ 頑張ります
- ・ 会場を盛り上げられるようなレースをします！
- ・ 日本記録決戦になることは間違いないのでその勝負にしっかりと加わるように最善を尽くします。
- ・ 自分の最高のパフォーマンスを観ていただきたい。会場の皆さんが盛り上がるレースをしたいと思います。
- ・ 優勝目指して頑張ります
- ・ 平塚競技場は中学時代から何度も走った場所であり、初めての世界陸上代表を決めた相性の良い場所なので、勝負だけでなく記録にもこだわって走りたいと思います。
- ・ 自己記録更新を狙います。
- ・ 自己ベスト更新して優勝したいと思います
- ・ ベストを尽くします
- ・ 学生には一歩も譲りません！！
- ・ 良い記録で優勝したい、頑張ります！
- ・ 試合を楽しみつつも、実業団代表として貢献できるように頑張ります！
- ・ 優勝する
- ・ 1センチでも遠くへ投げるために、ベストを尽くしていきたいと思います。身長は小さくても、大きいと思われる投げ。大きいと思われる佇まいをしたいです
- ・ 学生には負けません！
- ・ 優勝できるよう頑張ります。
- ・ 自己記録更新を目指して頑張ります。
- ・ 頑張ります。
- ・ ベスト目指して全力で速く走り、全力で楽しみます！
- ・ 実業団代表として貢献できるよう、精いっぱい頑張ります！
- ・ SB更新できるように精一杯頑張ります！
- ・ 実業団代表として精一杯頑張ります！
- ・ 初出場ですが実業団チームに貢献できるように頑張ります。
- ・ 実業団代表として精一杯頑張ります！
- ・ 走るからには優勝を！
- ・ 雰囲気を楽しみながら、今の力を出し切りたいです。
- ・ 代表らしく、精一杯頑張ります。
- ・ 夕方のレースということもあり、とても走りやすいので、自分の課題にチャレンジして走りたいと思います
- ・ 自己記録を出せるように頑張ります。
- ・ 楽しんで走りたい。
- ・ 初出場なので、雰囲気を楽しみながらPB目指して頑張ります
- ・ 自己ベスト更新を目指して頑張ります！応援よろしくお願いします！
- ・ 実業団チームに貢献できるようベストを尽くします！
- ・ ミスのないレースでシーズンベストの更新を目指します。
- ・ 実業団チームに貢献できるように頑張ります。
- ・ 自己記録の更新！
- ・ 楽しみながら頑張ります。
- ・ 2年前は学生として出場しましたが、今年は社会人としての出場。表彰台の一番上を目指して頑張ります。

- ・ 自己記録更新目指して頑張ります
- ・ 夜の雰囲気を楽しみながら、自己ベストを目指します。
- ・ 優勝！自己ベスト更新！
- ・ 優勝目指して頑張ります
- ・ 楽しい面白い試合にしたいです
- ・ 実業団代表という自覚をもって、しっかり試合をしたいと思います。

代表選手アンケート【学生】

- ・ 実業団の方に負けないように1位目指します
- ・ 頑張ります！
- ・ カッコいいと思われる走りをしたいです
- ・ 優勝
- ・ 自己記録更新を目指す
- ・ 走る機会に恵まれたことに感謝して、正々堂々全力で挑みます。
- ・ こいつスマブラしかしてないじゃねえか!と言われないように優勝します。
- ・ 自己ベストで走る
- ・ 1位になり賞金をとる
- ・ 実業団の選手と走れる機会はなかなかないのでチャレンジャーとして実業団の選手や全国の強豪達に食らいついて勝つレースをして頑張りたい
- ・ 自己ベスト更新!
- ・ 日本記録目指し頑張ります。
- ・ あまり賞金のことなどは考えず、楽しんで走ろうと思います。学生たちで力を合わせて実業団の人たちを倒します
- ・ 出るからには優勝出来るように頑張りたいです。学生チームに貢献します!
- ・ 出場するからには勝ちにこだわりたい
- ・ 前半から攻めるレースをします!!
- ・ チャレンジャーとして頑張ります!!
- ・ 初めての実学対抗ですが、雰囲気を楽しんで試合に臨みたいです。
- ・ 楽しみたいです!
- ・ 気負わず楽しんで頑張ります!
- ・ 優勝目指して頑張ります
- ・ PBは低いですが、自分らしい跳躍で勝ちます!
- ・ 1位を目指す。賞金でサノスを買う。
- ・ 自分の持てる最大限の力で試合に臨ませていただきたいと思います。まだまだ未熟で、トップレベルの選手たちには遠く及ばないかもしれませんが、力の限りを尽くして、学生代表の名に恥じないような投擲をしたいです。
- ・ ケガをしないように最高のパフォーマンスをする
- ・ 楽しく試合をする。
- ・ 今できる事をできるように頑張ります。
- ・ 頑張ります。
- ・ 優勝したいです。
- ・ 優勝できるように頑張ります。
- ・ 出場するからには、優勝を狙って頑張ります
- ・ 自己ベスト更新を目標に最高のパフォーマンスが出来るように頑張ります!
- ・ 出場させてもらえることに感謝して、自己ベストを更新できるように頑張ります。
- ・ 自己ベストを更新できるように頑張ります!
- ・ 優勝目指して頑張ります。
- ・ 出るからには勝ちます!応援よろしくお願いします!
- ・ 実業団選手と走れる数少ない機会なので、自分の力を十分に発揮し、積極的なレースにしていきたいと思います。
- ・ 実業団の強い選手と走れる貴重な機会なので恐れず強気の走りをします。
- ・ 練習通り楽しくがんばります!
- ・ 選んでいただいたからにはしっかりと成績を残せるように頑張ります。
- ・ スタートから飛び出して、最後まで自分の走りをします。
- ・ 自己ベストを目指して頑張ります。
- ・ 初めての実学対抗なのでとても楽しみです。
- ・ 学生の代表としての誇りを持ち、思い切ったレースをします。
- ・ しっかり戦えるように楽しみながら頑張りたいと思います。
- ・ 6m20跳べるように頑張ります。
- ・ 自分らしい跳躍をして優勝を目標に頑張ります。
- ・ 笑顔で試合を楽しむ!
- ・ 初出場なので少し緊張しますが、雰囲気を楽しんで自分らしい跳躍をします。
- ・ 自分の最高のパフォーマンスで勝負できるように頑張りたいです!!
- ・ いつも通りの事をするのと、強い選手がいる中でも自分の力を出せる試合にしたいです。
- ・ 出るからには会場を盛り上げられるような試合にしたい。また、日本のトップ選手が集まっている中でもしっかり自分の投げをしたい。
- ・ 下級生の頃から憧れの大会なので、まずはその雰囲気を楽しみながら、そしてしっかり点を取りたいと思います。
- ・ ベストを出せるように頑張ります!!
- ・ 自己ベストを更新できるように頑張ります。
- ・ シニアの方との試合は今年に入って初めてなので雰囲気を楽しんで上位にくいこみたいです。
- ・ 実業団選手の方と試合を楽しみながら、思い切った投擲が出来るように頑張りたいと思います。

計画・実施												評価(競技成績など)								改善点		各大会のコメント: 50年史より引用	大会: 1~59回					
大会・回	①開催期日	②競技場	③種目数		④出場者数(合計)		⑤正規出場者数		⑥オープン参加者数		⑦種目別実施回数	⑧1種目当りの参加選手数	⑨第1回~59回大会における実施種目の特徴	⑩決勝一覧(記録、順位等)	⑪対抗成績						⑫日本記録			①計画・実施、②競技成績、③競技運営など	④今後のあり方や課題等は?			
			男子	女子	男子(人)	女子(人)	男子(人)	女子(人)	男子(人)	女子(人)					総合		男子		女子		男子					女子	全体	
															実業団(点)	学生(点)	実業団(点)	学生(点)	実業団(点)	学生(点)								
1	1961(S36) 9.24	小	19	9	117	54	117	54	0	0					289	260	190	184	99	76	0	0	0			欧州遠征の疲れ	1	
2	1962(S37) 10.7	小	20	10	129	66	129	66	0	0					321.5	266.5	202	188	119.5	78.5	0	0	0			兼国際親善競技会	2	
3	1963(S38) 7.7	小	20	10	120	61	120	61	0	0			(参照)	第1回	308	280	199	192	109	88	1	1	2			主力は欧州遠征中	3	
4	1964(S39) 7.12	小	20	10	119	62	115	59	4	3	(参照)	(参照)	パターン	から	305.5	276.5	204.5	181.5	101	95	2	1	3			東京五輪代表24名	4	
5	1965(S40) 7.18	小	20	10	119	62	116	62	3	0	表1	表2	図9-1	第58回	296	289	199	188	97	101	2	2	4			好記録続出	5	
6	1966(S41) 7.3	小	20	10	120	63	119	62	1	1	図7-1	図8-1	図9-2	大会	267.5	320.5	175	215	92.5	105.5	0	1	1			学生活躍	6	
7	1967(S42) 7.16	小	20	10	131	66	130	62	1	4	図7-2	図8-2	図9-3	までの	309	282	220	173	89	109	0	1	1			観客数:1万人以上	7	
8	1968(S43) 7.21	小	20	10	131	62	131	62	0	0			図9-4	決勝	326.5	262.5	238	153	88.5	109.5	2	1	3					8
9	1969(S44) 7.19	国	20	11	120	70	119	66	1	4			図9-5	記録	335.5	267.5	226.5	159.5	109	108	1	1	2			小田原改装中	9	
10	1970(S45) 6.7	小	20	11	127	71	123	67	4	4			図9-6	は割愛	346	267	241	154	105	113	3	2	5			歴史的競技会	10	
11	1971(S46) 6.6	小	20	11	121	66	115	65	6	1					313.5	274.5	208.5	163.5	105	111	0	0	0			荒天気	11	
12	1972(S47) 6.11	小	20	12	121	73	121	73	0	0					324.5	301.5	213.5	178.5	111	123	0	1	1			良コンディション	12	
13	1973(S48) 6.10	小	20	12	129	74	118	72	11	2					309.5	312.5	208.5	175.5	101	137	0	1	1					13
14	1974(S49) 6.9	小	20	12	122	71	122	71	0	0					336.5	293.5	224	169	112.5	124.5	1	0	1			日本選手権1週間後	14	
15	1975(S50) 6.22	小	20	12	108	67	108	67	0	0					292	276	202	148	90	128	0	0	0			悪条件	15	
16	1976(S51) 6.13	小	20	12	120	72	120	71	0	1					331	295	198.5	190.5	132.5	104.5	1	0	1			五輪代表5名出場	16	
17	1977(S52) 7.3	小	15	8	98	49	90	48	8	1					217	235	136	162	81	73	1	0	1			兼ユニバ最終選考会	17	
18	1978(S53) 7.2	小	19	12	115	73	114	73	1	0					309	312	205	177	104	135	1	0	1			31種目	18	
19	1979(S54) 7.8	松	19	12	118	74	114	74	4	0					306.5	306.5	184	195	122.5	111.5	3	0	3			小田原改修中	19	
20	1980(S55) 6.29	小	19	12	114	73	112	73	2	0					315.5	302.5	185	195	139.5	107.5	0	0	0			欧州遠征中	20	
21	1981(S56) 6.21	小	19	12	125	72	113	71	12	1					282	338	176	208	106	130	2	0	2			梅雨冷え	21	
22	1982(S57) 6.6	小	19	13	123	81	116	78	7	3					336	309	199	187	137	122	2	0	2			良天候	22	
23	1983(S58) 6.5	小	20	13	137	79	113	79	24	0					348	295	200	183	148	112	0	1	1			ユニバ代表:リレー	23	
24	1984(S59) 10.28	小	19	13	120	80	115	79	5	1					339	304	190	193	149	111	0	0	0			兼ユニバ選考会	24	
25	1985(S60) 7.7	小	19	13	116	86	112	76	4	10					327	309	197	184	130	125	0	0	0			兼ユニバ壮行会	25	
26	1986(S61) 7.6	小	19	13	110	80	110	80	0	0					334	305	207	171	127	134	0	0	0			男:欧州遠征中	26	
27	1987(S62) 10.18	小	19	13	103	78	103	78	0	0					335	294	195	175	140	119	0	0	0			3年ぶり秋開催	27	
28	1989(S63) 7.10	小	19	13	114	79	114	79	0	0					315.5	326.5	204	177	111.5	149.5	0	0	0			ソウル五輪代表	28	
29	1989(H元) 7.22	平	19	13	111	78	111	77	0	1					311	328	186	195	125	133	0	0	0			ユニバ代表	29	
30	1990(H2) 7.8	小	19	13	110	75	110	74	0	1					313	311	179	189	134	122	0	0	0					30
31	1991(H3) 9.23	平	17	13	108	81	98	81	10	0					291	280	162	161	129	119	0	0	0					31
32	1992(H4) 9.22	小	17	13	100	84	99	84	1	0					306	267	172.5	151.5	133.5	115.5	0	1	1			4.5時間プロ	32	
33	1993(H5) 6.26	平	12	10	78	64	75	63	3	1					216	196	121	106	95	90	0	1	1			4:30-7:30終了	33	
34	1994(H6) 6.25	小	13	10	81	64	81	62	0	2					229	203	128	120	101	83	0	0	0			兼広島アジア選考会	34	
35	1995(H7) 7.23	平	12	10	74	62	73	62	1	0					208.5	193.5	111.5	109.5	97	84	0	0	0			兼ユニバ福岡壮行会	35	
36	1996(H8) 10.26	小	13	10	82	62	81	61	1	1					220	210	133	114	87	96	0	0	0			最も遅い日程	36	
37	1997(H9) 10.12	平	12	10	70	62	69	61	0	1					201.5	199.5	115	104	86.5	95.5	0	0	0			日本選手権翌週	37	
38	1998(H10) 6.28	小	12	9	74	56	73	56	1	0					224	192	134	105	90	87	1	2	3			猛暑	38	
39	1999(H11) 6.27	平	11	8	70	47	61	47	9	0					178.5	168.5	97.5	98.5	81	70	0	0	0			悪天候・風雨	39	
40	2000(H12) 6.25	小	13	9	78	56	71	56	7	0					233	181	121	116	112	65	0	1	1			40回目の節目	40	
41	2001(H13) 6.24	平	10	8	59	49	59	49	0	0					185.5	163.5	95.5	98.5	90	65	0	0	0			エト世界代表	41	
42	2002(H14) 6.23	小	11	8	71	52	68	52	3	0					194	155	104	101	90	54	2	4	6			日本ICの翌日	42	

43	2003(H15)	10.19	平	11	8	70	52	69	52	1	0				182.5	167.5	105.5	100.5	77	67.5	0	0	0	秋晴れ	43																
44	2004(H16)	10.3	小	11	11	63	68	61	68	2	0				209	207	105	92	104	115	0	0	0	雨中	44																
45	2005(H17)	10.2	平	10	9	62	57	61	56	1	1				198	176	103	94	95	82	0	1	1	秋晴れ	45																
46	2006(H18)	10.27	小	11	11	64	65	62	60	2	5				212.5	178.5	99	96	113.5	82.5	0	1	1	曇り空微風	46																
47	2007(H19)	10.21	平	10	9	62	55	61	55	1	0				215	158	114	83	101	75	0	0	0	秋晴れ	47																
48	2008(H20)	10.18	小	10	10	60	59	60	59	0	0				211	179	109	86	102	93	0	0	0	好天	48																
49	2009(H21)	10.17	平	10	9	65	57	62	56	3	1				207	168	109	89	98	79	0	0	0	秋晴れ	49																
50	2010(H22)	10.18	小	13	13	81	80	78	79	3	1				219	173	102	93	117	80	0	0	0	半世紀の節目	50																
51	2011(H23)	10.15	平	10	9	64	58	62	56	2	2				206	168	102	95	104	73	0	1	1		51																
52	2012(H24)	10.14	小	10	10	61	60	61	59	0	1				207	184	97.5	99.5	109.5	84.5	0	1	1		52																
53	2013(H25)	10.19	平	10	9	61	57	59	56	2	1				181	191	105	90	76	101	0	0	0		53																
54	2014(H26)	9.21	小	10	10	64	61	62	61	2	0				227	168	110	88	117	80	0	0	0		54																
55	2015(H27)	7.25	平	10	9	64	57	62	56	2	1				202	172	112	85	90	87	0	0	0	2015オールスター	55																
56	2016(H28)	7.23	平	10	10	62	62	60	62	2	0				218	175	108	87	110	88	0	0	0	2016オールスター	56																
57	2017(H29)	7.22	平	10	10	61	63	60	60	1	3				206	187	93	104	113	83	0	0	0	2017オールスター	57																
58	2018(H30)	7.21	平	9	9	60	56	53	53	7	3				210	178	113	81	97	97	0	0	0	2018オールスター	58																
59	2019(R元)	7.27	平	10	10	70	67	62	61	8	6			資料1-1-1	203.5	195.5	95.5	103.5	108	92	1	0	1	2019オールスター	59																
60	2020(R2)																									60															
																					26	26	52																		

文献：①日本実業団陸上競技連合／社団法人日本学生陸上競技連合(2010)秩父宮賜杯実業団・学生対校陸上競技大会50年史、② 学生連合：会報

注1) 大会名：

① 「秩父宮賜杯 第?回実業団・学生対抗陸上競技大会」は、「?(数字)」と略す。

② 名称の別名：第55回：2015オールスター、第56回：2016オールスター、第57回：2017オールスター、第58回：2018オールスター、第59回：2019オールスター

注2) 競技場(場所)：

①「小田原市城山陸上競技場」は「小」、②「Shonan BMW スタジアム平塚」は「平」、③国立競技場は「国」、④松本競技場は「松」と略す。

注3) ユニバーサル：男女混合4x400mRは、第58回大会(2018)、第59回大会(2019)に実施された。

注4) 種目数：中止(悪天候等のため)、オープン種目、特別種目などを含む(+/-を行った)。

注5) ④出場者数合計とは、⑤正規出場者数 + ⑥オープン参加者数の合計である。

注5) 本表では、日本記録樹立者氏名・所属および最優秀選手名については割愛した。

資料1-2-1 実学対抗戦の歩み (第1回~第59回) : ①開催期日、②競技場、③種目数 (男女)、④出場者数合計 (合計) (男女)、⑤正規出場者数 (男女)、⑥オープン参加者数 (男女)、⑦種目別実施回数(男女)、⑧1種目当りの参加選手数、⑨実施種目の特徴、⑩決勝一覧 (苦戦)、⑪対抗成績 (総合、男女)、⑫日本記録 (男女、全体)

図1 開催期日 (推移)

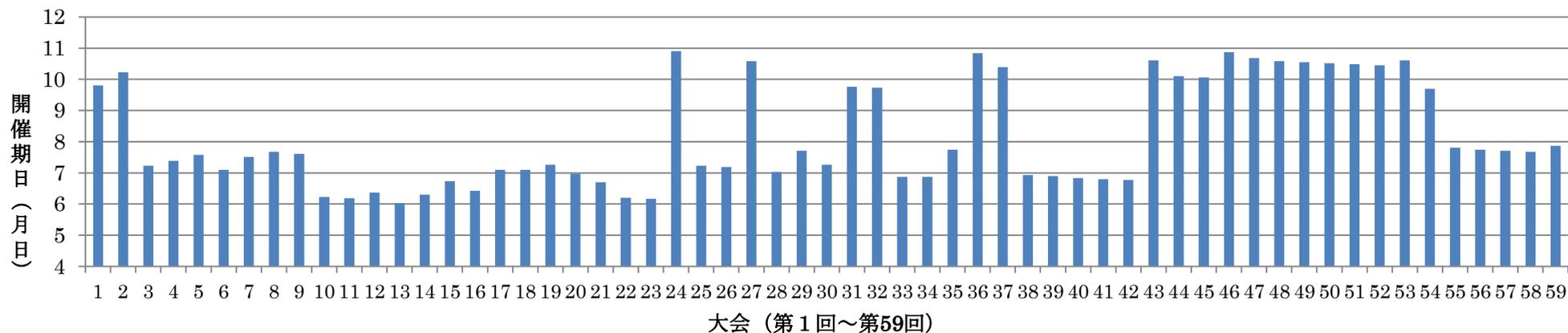
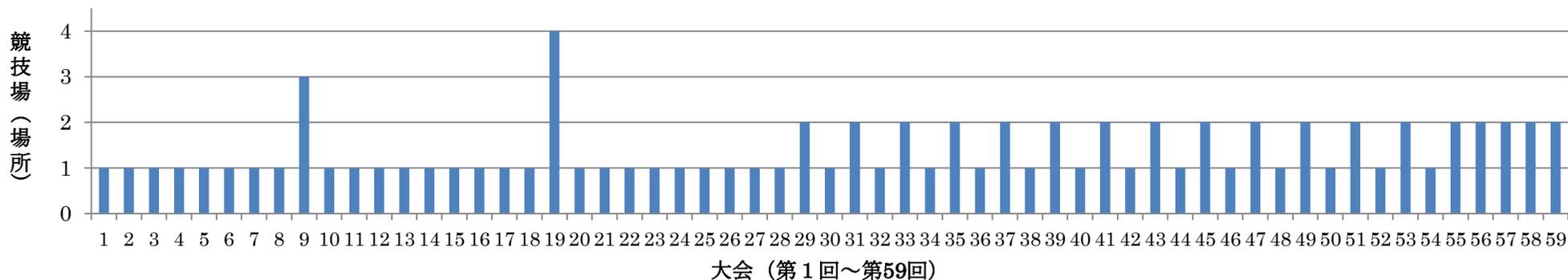


図2 競技場 (推移)



■ 競技場 1 : 小田原 2 : 平塚 3 : 国立 4 : 松本

図3 種目数（推移）—男女—

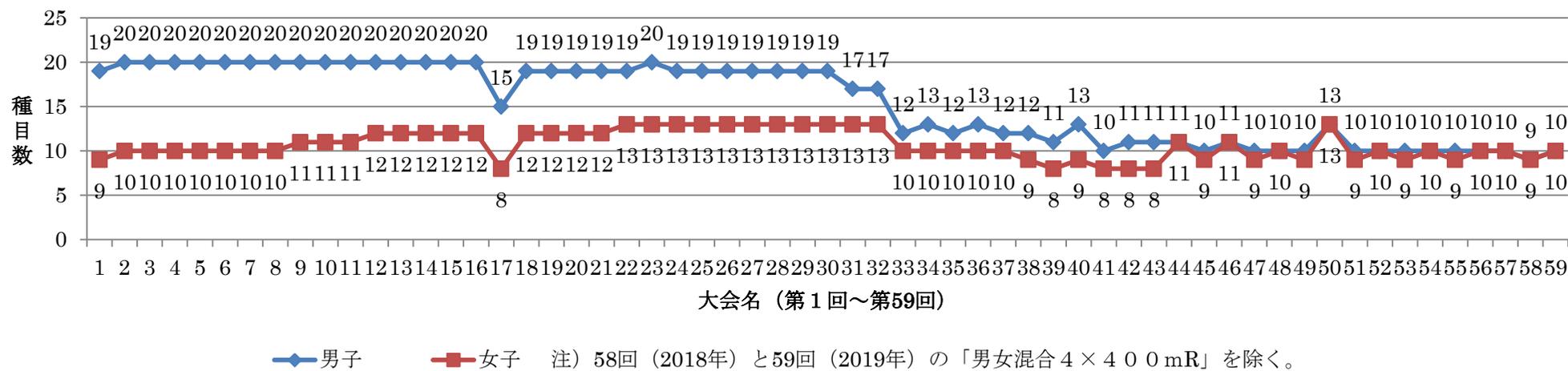


図4 出場者数合計（推移）—男女—

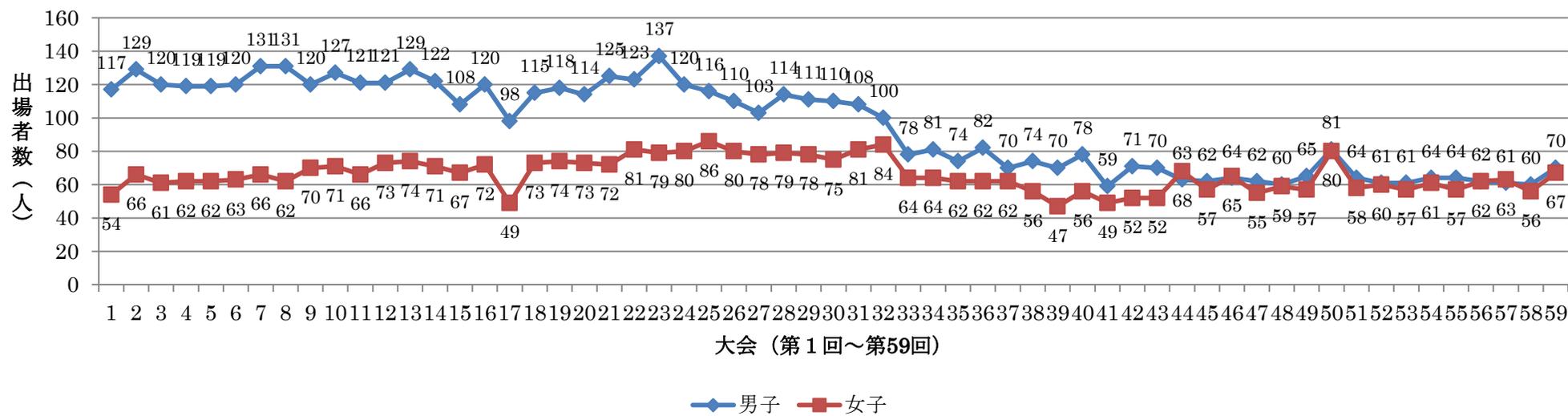


図5 正規出場者数（推移）—男女—

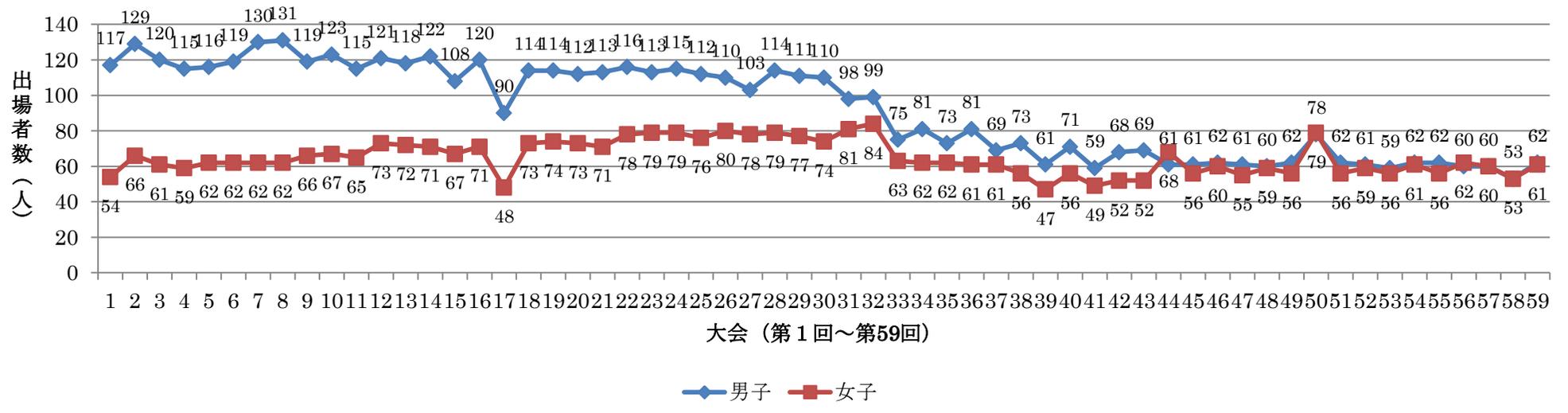


図6 オープン参加選手数（推移）—男女—

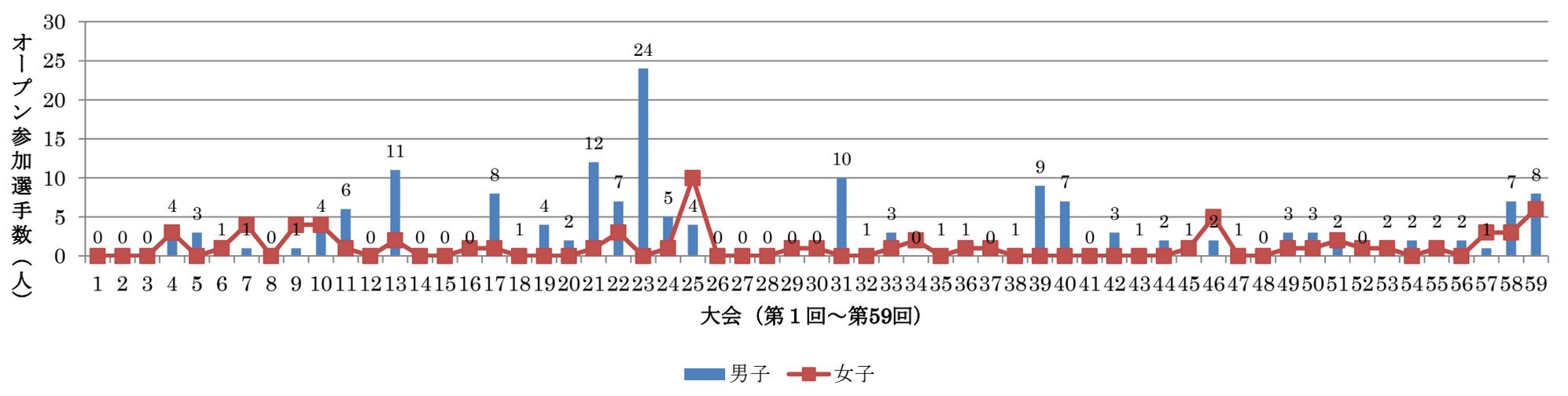


表1 種目別実施状況 (第1回大会～第59回大会)

種目番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	100m	200m	400m	800m	1500m	男子: 5000m 女子: 3000m	男子: 10000m 女子: 5000m	男子: 110mH 女子: 80mH + 100mH	400m H	3000 mSC	4x100 mR	4x400 mR	4x800m R	4x1500m R	スウェーデン	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子(実施回数)	59	31	59	43	45	36	29	59	54	43	26	23	1	1	34	46	42	46	47	45	45	47	45
女子(実施回数)	59	31	51	52	24	4	12	59	16	0	37	8	2	0	20	44	2	47	15	44	46	8	47
注1)種目番号6:男子5000mと女子3000m、番号7:男子10000mと女子5000m、番号8:男子110mHと女子80mH+100mHは、種目の特徴から本表では同区分とした。																							
注2) 男子		1op2									2op16					1特		1op4	1特			1特	
																1中止	3中止						
注3) 女子		1op5														1中止		1特			1特		1特

図7-1 種目別実施回数—男子—

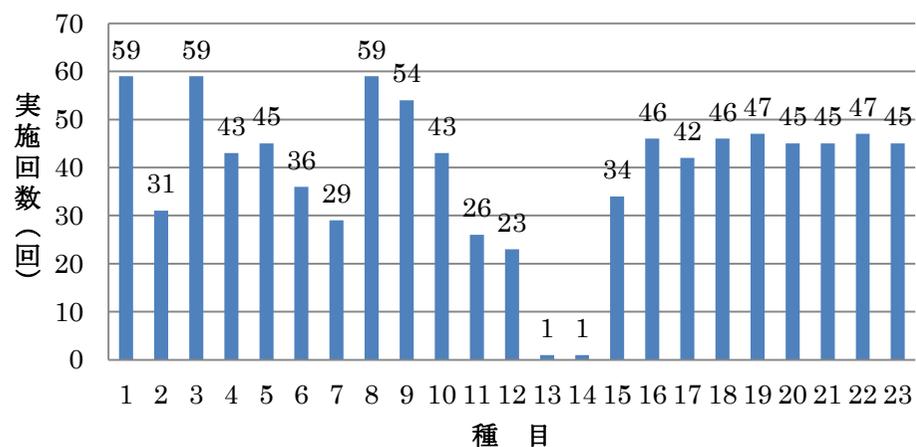


図7-2 種目別実施回数—女子—

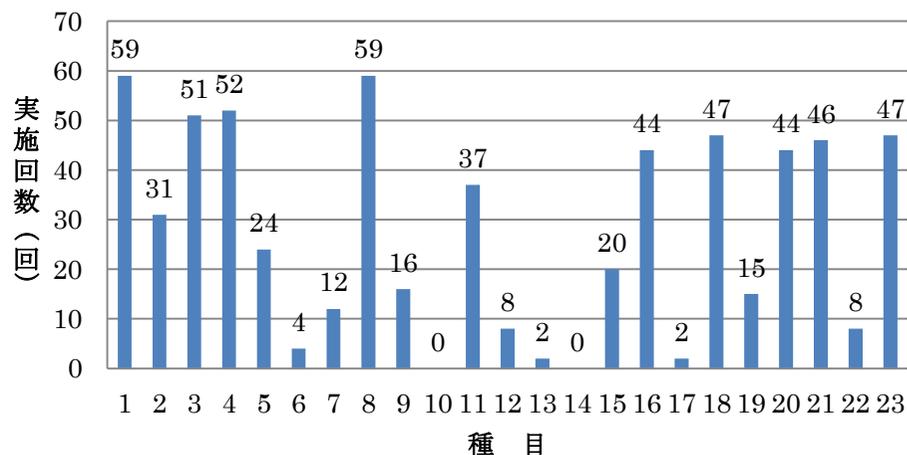


表2 1 種目当りの参加選手数（平均値、最大値、最小値など） 注）リレー（5種目を除く）

#	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
種目	100m	200m	400m	800m	1500m	男： 5000m/ 女：3000 m	男： 10000m /女： 5000m	男： 110mH / 女80mH + 100mH	400mH	3000mS C	走高 跳	棒高 跳	走幅跳	三段跳	砲丸 投	円盤 投	ハン マー 投	やり 投
男子：合計	372	182	358	253	272	220	178	361	321	251	279	208	280	286	269	271	282	272
実施数	59	31	59	43	45	36	29	59	54	43	46	42	46	47	45	45	47	45
平均値	6.31	5.87	6.07	5.88	6.04	6.11	6.14	6.12	5.94	5.84	6.07	4.95	6.09	6.09	5.98	6.02	6	6.04
最大値	8	7	8	7	9	11	9	8	8	7	8	8	8	8	7	7	7	7
最小値	5	2	4	4	5	4	5	4	5	5	4	3	4	4	5	5	5	5
女子：合計	356	183	295	301	143	25	70	352	103		257	12	289	88	262	280	48	288
実施数	59	31	51	52	24	4	12	59	16	0	44	2	47	15	44	46	8	47
平均値	6.03	5.9	5.78	5.79	5.96	6.25	5.83	5.97	6.44		5.84	6	6.15	5.87	5.95	6.09	6	6.13
最大値	7	7	7	7	7	7	9	8	7		7	6	8	6	7	7	6	8
最小値	5	5	5	5	5	6	5	5	6		4	6	5	4	5	5	6	5

図8-1 1種目当りの参加選手数—男子— (注：オープン種目とオープン参加選手を含む)

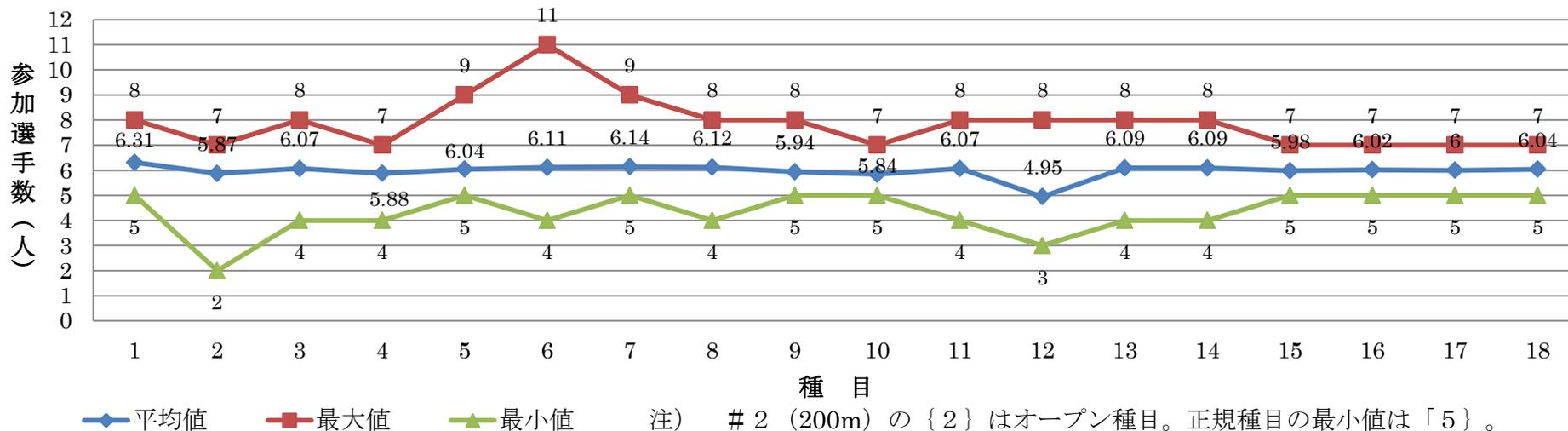
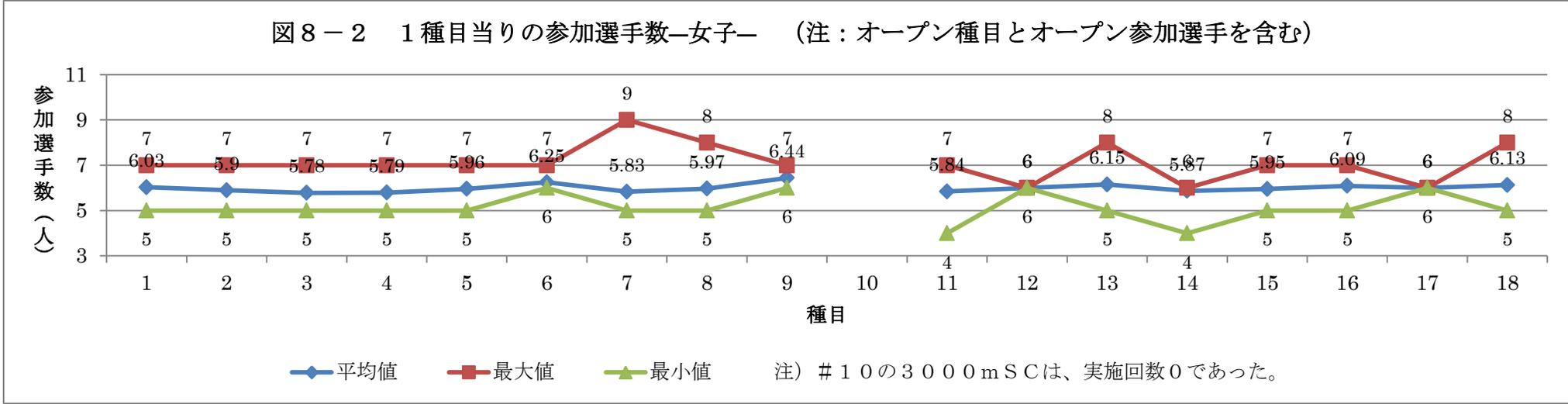


図 8-2 1種目当りの参加選手数—女子— (注：オープン種目とオープン参加選手を含む)



＜第1回～第59回大会で実施された種目の特徴—パターン化(類型化)の試み—＞

上記の図3は、第1回～第59回大会における種目数の推移である。これによると、男子は、第1回大会が19種目でスタートした。その後第30回大会までは19～20種目、第31回大会で17種目、第33回大会では12種目であった。その後、9～13種目の範囲で行われ、2019オールスターナイト陸上では10種目であった。一方、女子は、第1回大会が9種目でスタートした。その後、10種目(第2回～8回)、11種目(第9回～11回)、12種目(第12回～21回、注)7回大会：8種目)、そして13種目(第22回～32回)に増加した。しかし、その後、11～8種目に減少した。2019オールスターナイト陸上では10種目であった。

59年間で男子は20種目から10種目に減少し、女子は9種目から13種目に増加後、10種目に減少した。その増加や減少の理由については、様々な視点から検討されるべきであるが、本稿では、59年間で実施された種目のパターン化(類型化)を行って、当該種目の特徴をみてみたい。

注) 実学対抗陸上の目的・意義・役割とは何か。当該種目の設定理由とは何か。例えば、(時代の流れや背景の中で)、競技時間(終日か、半日か)、魅せる陸上、記録の出る大会、1人1種目(リレー除く)、賞金、競技場の場所、海外大会または国内大会との競合、その他の要因が推測されよう。

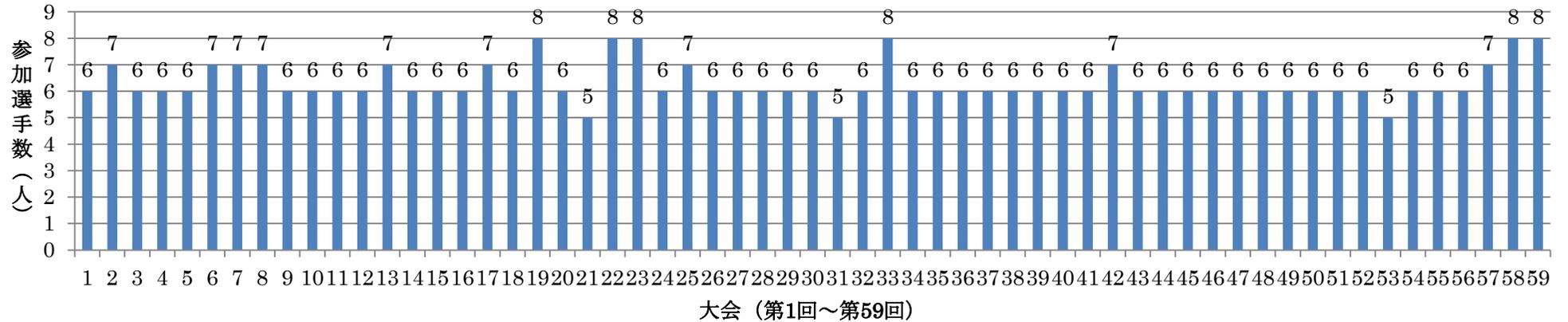
＜パターン(類型)の視点と具体的種目＞ (注：今回の6視点はおおよそ次の通り)

- ① ほぼ毎回実施……………：男子(100m、400m、110mH、400mH)、女子(100m、80mH+100mH(特別))
- ② 前半30回(or～40回)は実施、後半は無し(or1回～2回実施) ……：男子(200m、5000m、10000m、3000mSC)、女子(200m)
- ③ 前半は実施、後半は隔年実施または数年間実施……………：男子(800m、1500m、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投)、
女子(800m、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、やり投)
- ④ 中間に実施……………：女子(3000m、5000m)
- ⑤ 中間に実施、後半は数年間実施……………女子(1500m)
- ⑥ 前半は無し、後半(or9回～、or31回～、or44回～、or57回～)は(隔年)実施……………女子(400m、400mH、棒高跳、ハンマー投)

各パターンの事例（1つ、または3つ）は、次の通りである。

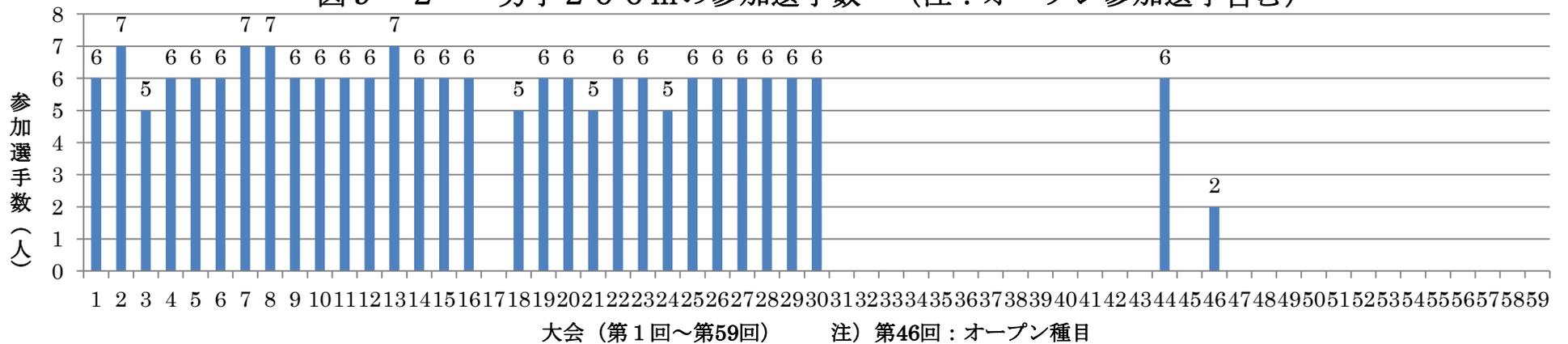
① パターン1： ほぼ毎回実施……………：男子（100m、400m、110mH、400mH）、女子（100m、80mH+100mH（特別）

図9-1 男子100mの参加選手数（注：オープン参加選手含む）



② パターン2： 前半30回 (or ~40回) は実施、後半は無し (or 1回~2回実施) ……：男子（200m、5000m、10000m、3000mSC）、女子（200m）

図9-2 男子200mの参加選手数（注：オープン参加選手含む）



③ パターン3：前半は実施、後半は隔年実施または数年間実施……：男子（800m、1500m、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投）、女子（800m、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、やり投）

図9-3-1 男子800mの参加選手数 (注：オープン参加選手含む)

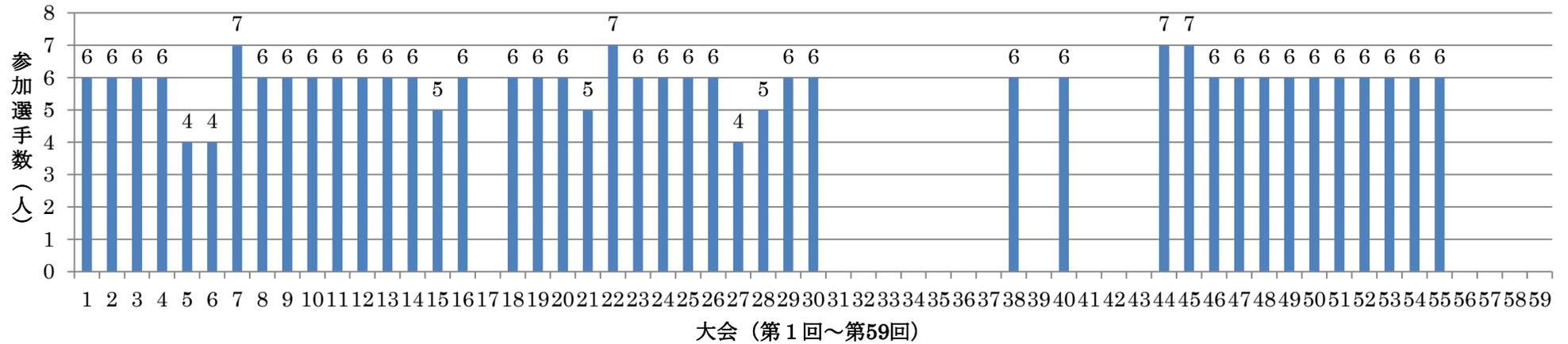


図9-3-2 男子の走高跳の参加選手数 (注：オープン参加選手数含む)

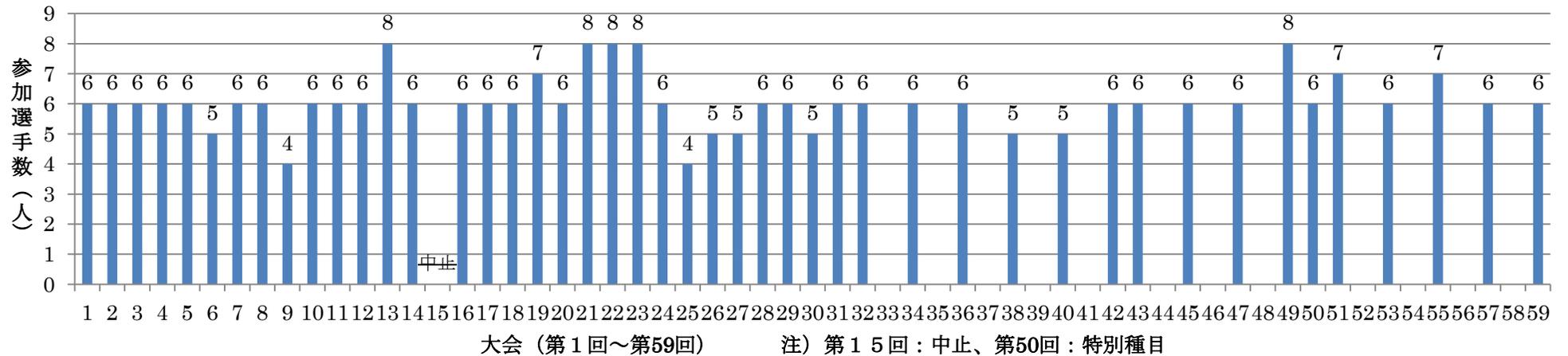
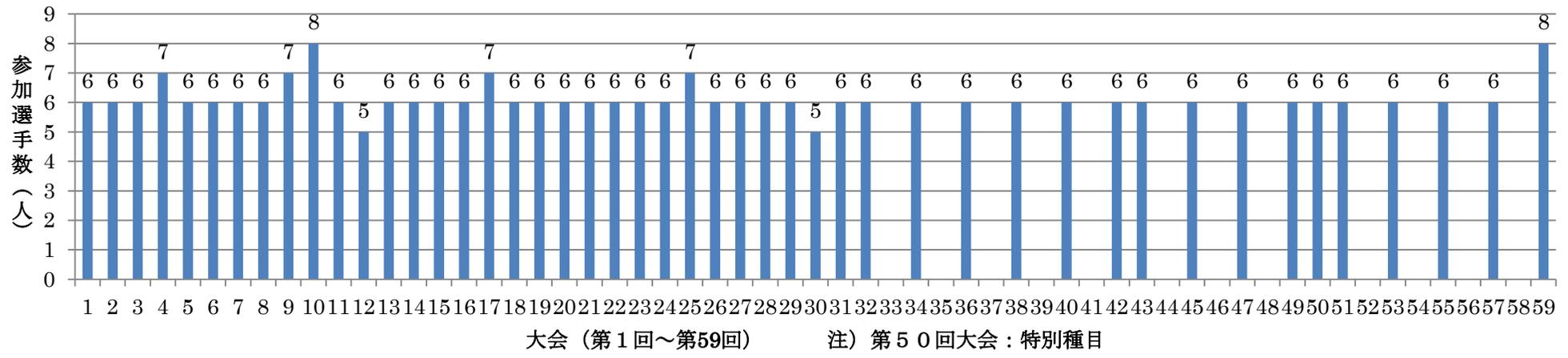
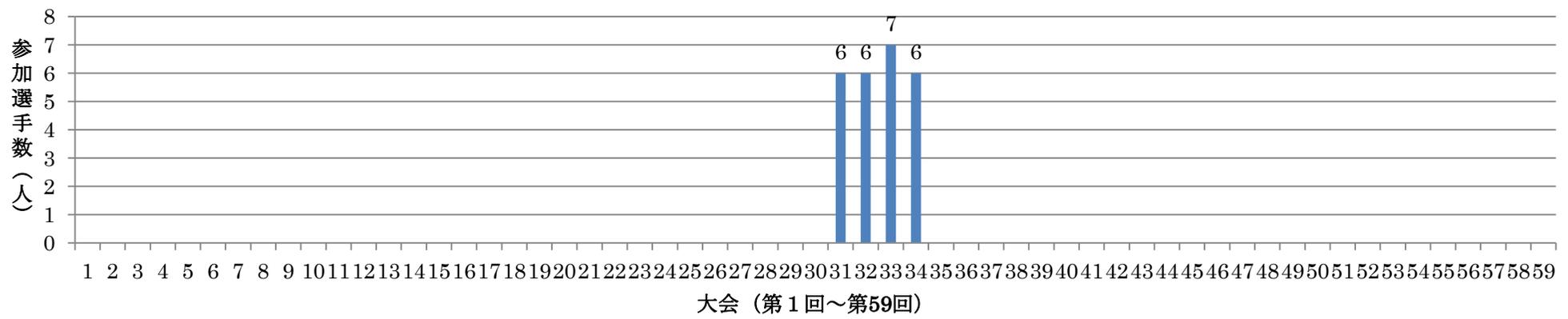


図9-3-3 女子やり投の参加選手数 (注：オープン参加選手含む)



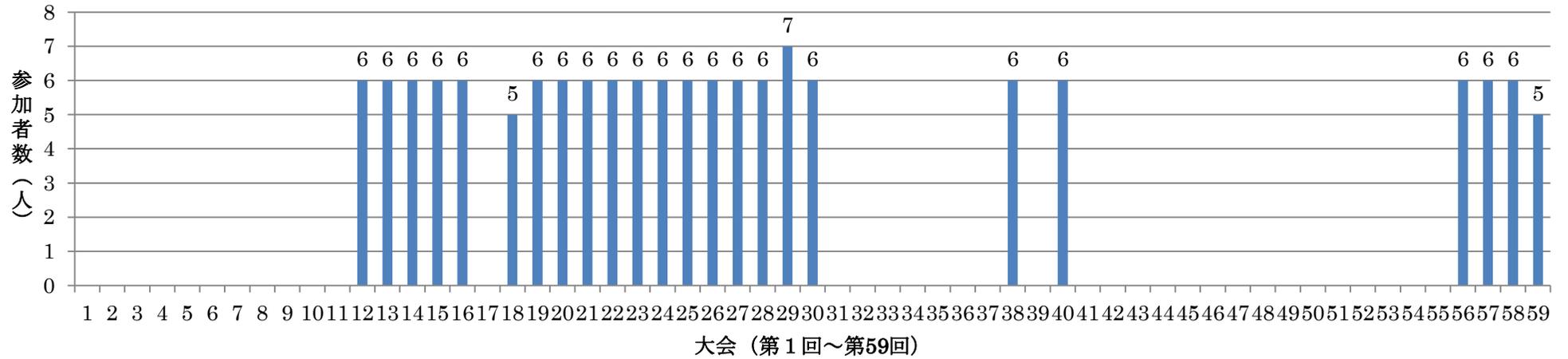
④ パターン4： 中間に実施 : 女子 (3000m、5000m)

図9-4 女子3000mの参加選手数 (注：オープン参加選手含む)



⑤ パターン5： 中間に実施、後半は数年間実施……………女子（1500m）

図9-5 女子1500mの参加者数 （注：オープン参加選手含む）



⑥ パターン6： 前半は無し、後半 (or 9回~, or 31回~, or 44回~, or 57回~) は実施 (or 隔年) ……………女子（400m、400mH、棒高跳、ハンマー投）

図9-6 女子400mの参加選手数 （注：オープン参加選手含む）

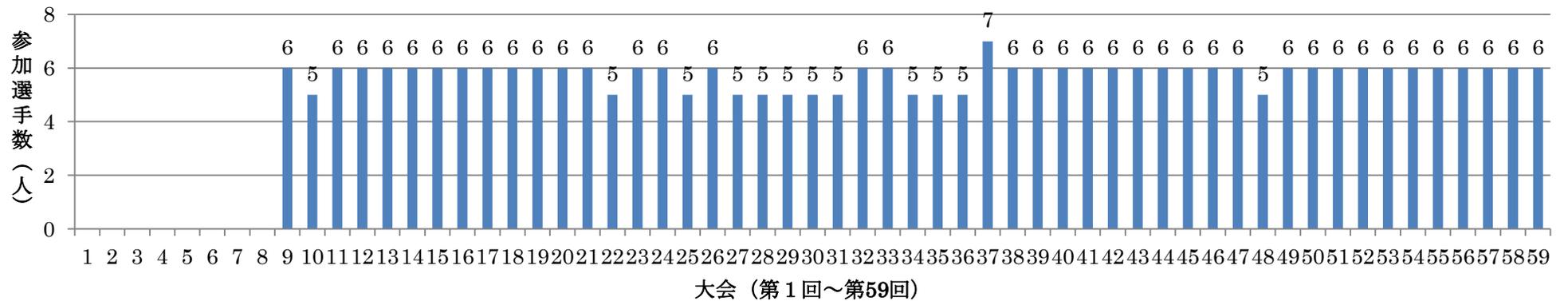


図 1 1 対抗成績—総合—

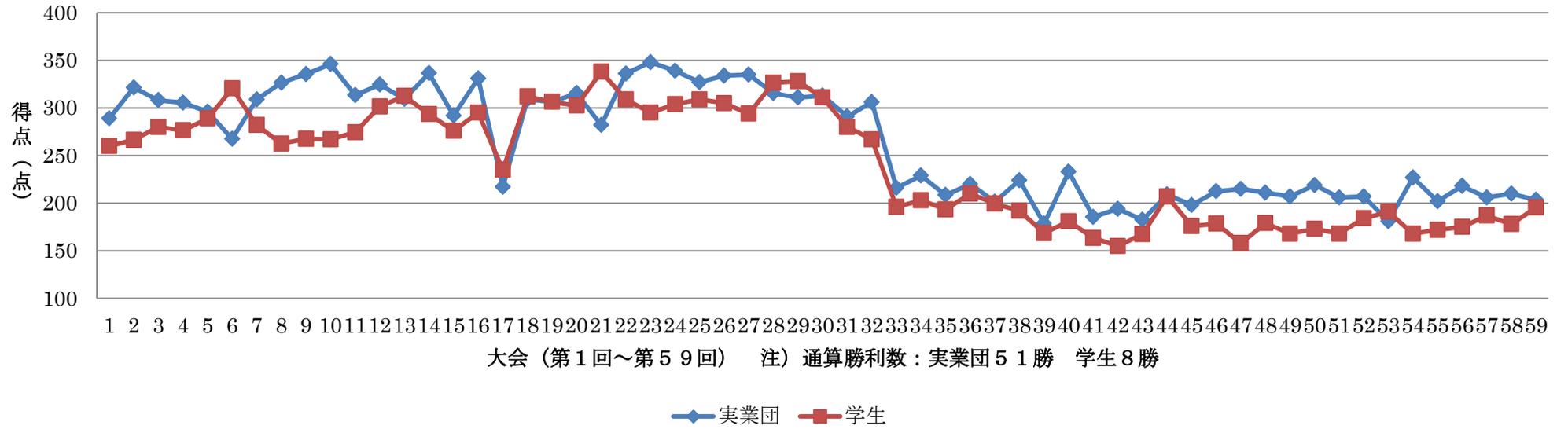


図 1 1 - 1 対抗成績—男子—

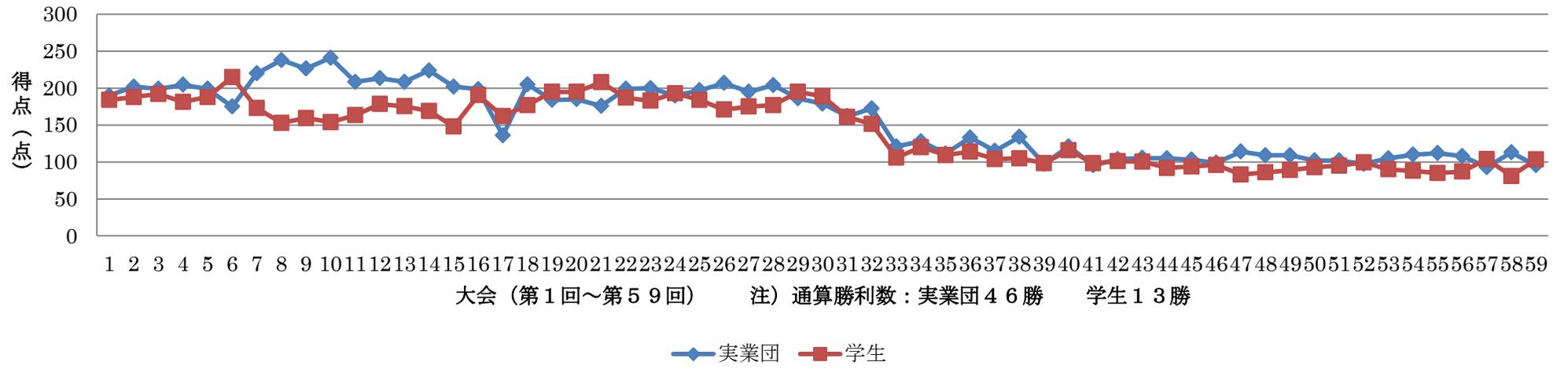


図 1 1 - 2 対抗成績—女子—

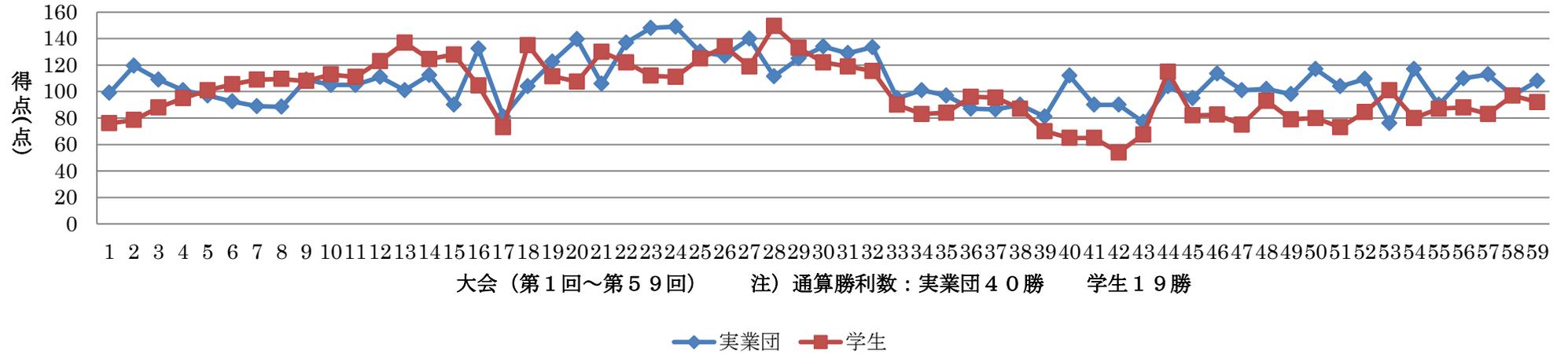


図 1 2 実学対抗戦で樹立された日本記録—全体—

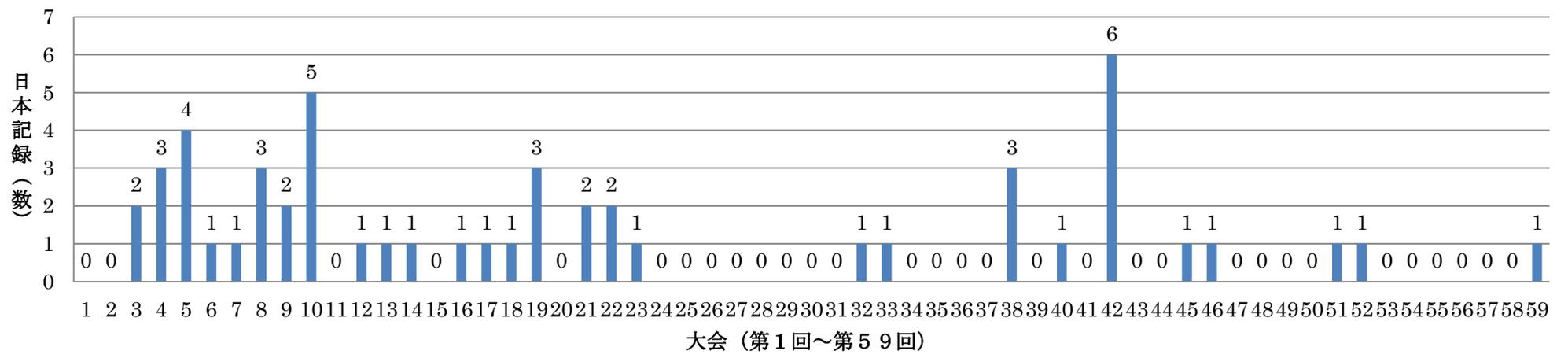
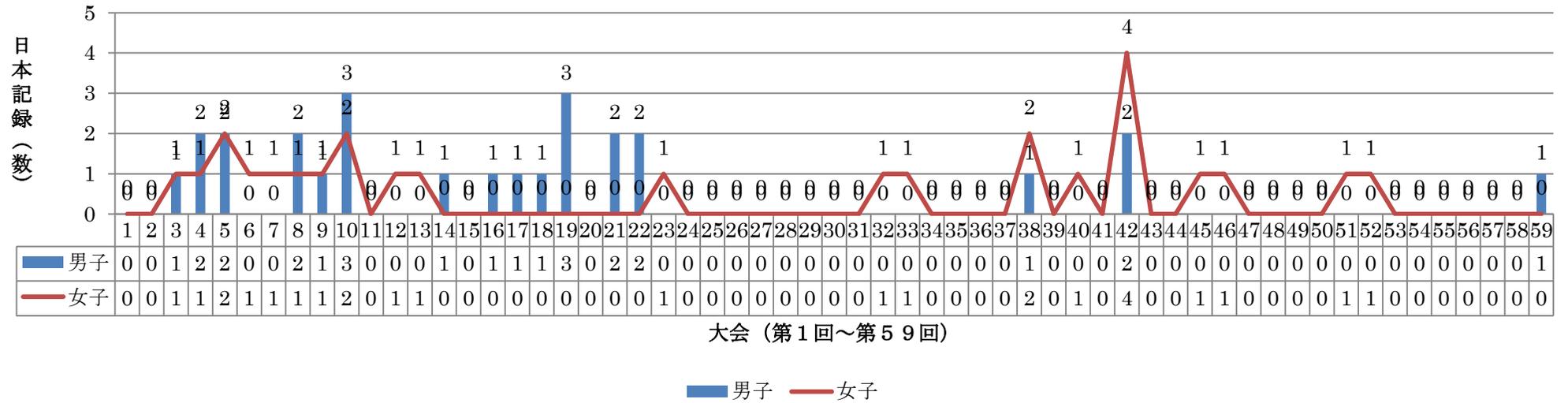


図 1 2 - 1 実学対抗戦で樹立された日本記録数—男女別—



以上

大会名 (正式)	大会名 (別名)	開催期日	男子																	男女混合
			種目数	100m	400m	800m	1500m	110mH	400mH	4x100mR	スウェーデン	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投	
第55回	2015オールスター	2015.7.25(土)	10	○	○	○		○	○		○	▲1			◎1	○		○		
第56回	2016オールスター	2016.7.23(土)	10	○	○		○	○	○		○		○	○		◎1		◎1		
第57回	2017オールスター	2017.7.22(土)	10	◎1	○		○	○	○		○	○		○	○		○			
第58回	2018オールスター	2018.7.21(土)	9	●2	●1		○	●1	○				○	●1		○1		○1	○	
第59回	2019オールスター	2019.7.27(土)	10	◎2	◎1		◎1	▲1	◎2	○		○			○	◎1		○		
各種目の延べ開催数(第1回~59回)			59	59	43	45	59	54	26	34	46 中止 1	42 中止 3	46	47	45	45	47	45	2	

第60回 (中止)	2020オールスター	2020.7.18(土)	10	○	○		○	○	○	○			○	○			○		○	○
第61回	2021オールスター	2021(R2)																		

大会名 (正式)	大会名 (別名)	開催期日	女子																	男女混合
			種目数	100m	400m	800m	1500m	100mH	400mH	4x100mR	スウェーデン	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投	
第55回	2015オールスター	2015.7.25(土)	9	▲1	○	○		○	○		○			○		○		○		
第56回	2016オールスター	2016.7.23(土)	10	○	○		○	○	○		○	○		○	○		○			
第57回	2017オールスター	2017.7.22(土)	10	○	○		○	◎1	◎1		○	◎1	○		○		○			
第58回	2018オールスター	2018.7.21(土)	9	○	○		○	●1 ○1	○1			●1		○	○		○		○	
第59回	2019オールスター	2019.7.27(土)	10	◎1	○		○	◎1	◎1	○			○	◎1		○		◎2	○	
各種目の延べ開催数(第1回~59回)			59	51	52	24	51	16	37	20	44 中止 1	2	47	15	44	46	8	47	2	

第60回 (中止)	2020オールスター	2020.7.18(土)	10	○	○		○	○	○	○			○		○	○		○		○
第61回	2021オールスター	2021																		

注1)資料1-2-2は、資料1-2などの一部を引用し、加筆したものである。
 注2)大会名(別名):例えば、2015年の大会名は「2015オールスターナイト陸上」である。2016年以降も同様である。
 注3)時刻:開会式(16:00 or 16:30)、競技開始(16:15 or 16:45)、閉会式(20:10 or 20:20 or 20:30)
 注4)場所:第55回大会~59回大会、Shonan BMW スタジアム平塚
 注5)男女混合競技(ユニバーサル競技):「男女混合4x400mR」種目(1種目であるが、表中では男女別に示した)
 注6)スウェーデンリレー:100m+200m+300m+400mR
 注7)凡例 ○:国内正規選手、◎:国内オープン選手、●:海外正規選手、▲:海外オープン選手、◎/●/▲/+数字(人数)
 注8)第60回(2020)は新型コロナウイルス感染症防止等のために中止となった。学連HP [2020all-star chushi.pdf \(iuau.jp\)](https://www.iuau.jp/2020all-star-chushi.pdf)

補足:オールスターナイト陸上(2015年~2019年)の検証について
 例えば、経営過程(計画・実施・評価)の視点から、出来る範囲で、検証する。

資料2 カテゴリー別Placing Score

※トラック&フィールド種目の場合

PLACE	OW	DF	GW	GL	A	B	C	D	E	F
1st	350	240	200	170	140	100	60	40	25	15
2nd	310	210	170	145	120	80	50	35	21	10
3rd	280	185	150	130	110	70	45	30	18	5
4th	250	170	140	120	100	60	40	25	15	
5th	230	155	130	110	90	55	35	22	12	
6th	215	145	120	100	80	50	30	19	10	
7th	200	135	110	90	70	45	27	17		
8th	185	125	100	80	60	40	25	15		
9th	130	90	70	60						
10th	120	80	60	50						
11th	110	70	50	45						
12th	100	60	45	40						
13th	95									
14th	90									
15th	85									
16th	80									

Japan Association of Athletics Federations, All Rights Reserved

大会カテゴリー（T&F種目）

大会のカテゴリー、順位に応じてポイントは異なる

カテゴリー	主な大会（T&F種目）
OW	オリンピック、世界選手権
DF	ダイヤモンドリーグファイナル
GW	世界室内、世界CC、コンチネンタルカップ、ダイヤモンドリーグ
GL	IAAFハンマースローチャレンジ、アジア選手権等
A	アジア大会、アジア室内、ワールドチャレンジ、World Indoor Tour
B	<u>エリアパーミット (1st Tier)</u> 、ユニバーシアード、日本選手権等
C	<u>エリアパーミット (2nd Tier)</u> 、U20世界選手権、全米学生等
D	<u>エリアパーミット (3rd Tier)</u> 、エリアパーミット室内、伝統的な国際競技大会、アジアジュニア、ユースオリンピック
E	国別対抗戦、アジアユース、IAAF承認の国内指定競技会、全米室内等
F	各国の公認競技会

Japan Association of Athletics Federations, All Rights Reserved

資料3-1 アジアパーミット大会を開催するための条件

開催条件：アジアパーミット大会の説明会で配布された資料の中から競技運営に関する内容を一部抜粋したものである。（尚、詳細については同資料参照のこと）

項目	内容
・AAAパーミットとは	T&F: B カテゴリー 記録スコア ここでは省略します。 順位スコア 1位:100、2位:80、3位:70、4位:60、5位:55、6位:50、7位:45、8位:40点
・AAAパーミット登録	必須
・対象競技会	「1」～「5」まで省略します。 「6」 上記以外で、AAAパーミットを希望し、 日本陸連 が認めた競技会（レース）。
・メリット（4点）	<ul style="list-style-type: none"> 大会公式印刷物や制作物にAAAロゴ使用可 大会名称に「AAAパーミット」と並記可 海外からの参加が増える可能性 IAAFポイントランキングにおける大会カテゴリーがアップ
・主催者の義務（6点）	<ul style="list-style-type: none"> AAA加盟すべての陸連に招待状を発送（※1 資料13頁参照） 各国からの問い合わせに回答（※2 資料13頁参照） ビザが必要な国への招へい保証書発送（※2 資料13頁参照） 参加選手への来日後のケア（※2 資料13頁参照） <p>※2: 主催者にスタッフがいない場合は、旅行会社と契約し、業務委託することを推奨する。 日本陸連が紹介することも可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム、スタートリスト、競技方法の英語表記（※3 資料14&15頁参照） IAAF規則の適用（ルールブックの国内適用は使わない） 注）ドーピング検査はAAAパーミット大会の必須要件ではない。
・開催条件	（トラック&フィールド）： IAAF 認証競技場（クラス1、クラス2）で開催 （世界（エリア）記録が認められる競技場）など
・申請手続き	以下のものを主催者（日本学連）が用意し、日本陸連からAAAに申請する。 <ul style="list-style-type: none"> 申請書に記載する内容の詳細 年間登録料250ドル
申請期限	目安は3月末まで。それ以降でも、申請可能。
・日本国内で申請できる競技会（T&F）	以下の条件を満たす競技会（3点：詳細 略） <ul style="list-style-type: none"> 主催後援競技会 <ul style="list-style-type: none"> 大会当日に競技場がIAAF認証を得ている競技会 主催者の義務を履行できる競技会
・AAAパーミット申請	AAAパーミットに該当する場合には、申請書を日本陸連が作成しAAAに提出。申請書作成のためには以下の情報を陸連まで。年間登録料250ドルは、各大会から直接、AAA指定口座に送金。 <ol style="list-style-type: none"> 大会（レース）名の日本語表記と英語表記 開催都市名 r 開催日 IAAF認証（トラック、コースともに）の有無 ※有る場合は証書を添付。無い場合はIAAF認証申請手続きをすること。 組織委員会（主催者）の名称と住所、電話、FAX、e-mail、及び担当者名と連絡先 2017年度参加国 実施種目

注) 大会カテゴリー：OW（オリンピック・世界選手権）、DF、GW、GL、A、**B**、C、D、E、F

注) 資料の出所：日本陸連、AAAパーミット説明会、2018年7月12日、TKP品川カンファレンスセンター

2020年2月13日

国際競技会(レース)主催者殿

公益財団法人日本陸上競技連盟

事務局長 風間 明

アジア陸連パーミット申請について

アジア陸上競技連盟(AAA)から、2020年のエリアパーミット(承認)への申請案内が届いたことに伴い、対象となる競技会主催者に、申請希望の有無確認のご案内を差し上げましたところ、申請希望の意思表示をいただきありがとうございます。

2020年のアジア陸連パーミットの条件はじめ諸手続きについて下記、ご確認のうえ、必要な手続きをお願いいたします。

WAの競技会カテゴリー確定のためには、年度はじめに対象競技会の一覧表を提出する必要がありますため、2月末日までに、事務局担当まで、必要な情報をお寄せください。

【AAAパーミットとは】

2009年からアジア陸上競技連盟(AAA)が取り入れた、国際競技会承認認証のシステム。AAAパーミットを持つという事は、AAAのお墨付きを得た国際競技会とみなされ、WAによるワールドランキングでは通常の国内競技会のFよりも高いランクDが付与される予定。AAAパーミット大会は、AAAのロゴを使用出来る他、AAAパーミットという呼称を大会タイトルに併記する事ができる。

【AAAパーミット対象】

AAAパーミットの対象となるのは以下の競技会(レース)。

1. アジア域内の選手権大会(レース)
2. アジア域内の国別対抗戦(レース)
3. WA認証(コンチネンタルツアー大会やロードレース・ラベルなど)を得ておらず出場料や賞金を支払っている国際招待大会(レース)
4. WAによるダイヤモンドリーグやコンチネンタルツアー大会と類似した域内国際招待大会(レース)
5. 5か国以上からの出場(予定)がある国際競技会(レース)
6. 上記以外で、AAAパーミットを希望し、日本陸連が認めた競技会(レース)

【AAAが定める条件】

1. (AAA各国からの)エントリーは、各国陸連経由で受け付けること。
2. WA規則を遵守すること。
3. AAAに加盟するすべての陸連に招待状(invitation)を送付すること。【注】
4. エントリー受付に際し、民族、宗教、政治的背景をもとにした差別的対応をしないこと。
5. 出場が決定したすべての選手が、間違いなく入国できるよう、(必要な国の選手が)入国査証(ビザ)を取得できることを保証すること。(※招へい保証書の発送)
6. 競技場は、WA競技場認証(クラス1または2)を持っていること。ロードレースは、IAAFコース認証を持っていること。

【注】:招待状とは、全選手招待という意味ではなく、大会の案内の意味。従って、招待条件は、主催者の財務状況によって設定してよい。飛行機代、国内交通費、宿泊代などすべて参加国負担としてもよいし、ある一定の基準以上の有力選手についてのみ、宿泊代を負担するといった招待条件も可能。

【日本陸連が求める主催者の義務】

- ・ スタートリスト、競技方法、リザルト(結果)の英語表記
- ・ WA 規則の適用に関し、別添チェックリストにある要件の実施
- ・ 招待状発送後、各国から寄せられる問い合わせに英語で回答(※対応方法については陸連事務局と要相談)
- ・ 参加選手への来日後のケア

【申請手続き】

以下のものを主催者が用意し、日本陸連から AAA に申請する。

- ・ 申請書
- ・ 年間登録料(トラック&フィールドは 500 ドル。ロードレースは 1000 ドル。日本陸連が立て替え払いし、後日、主催者に請求)

【メリット】

- ・ 大会公式印刷物や制作物に AAA ロゴ使用可
- ・ 大会名称に「AAA パーミット」と並記可
- ・ WA のポイントラインキングにおける競技会ステータスがアップ
- ・ 海外からの参加が増える可能性

上記の条件、義務及び登録料など要件を満たし、AAA パーミットへの申請を希望する場合には、申請書を日本陸連が作成しますので、以下の情報をお知らせ下さい。また年間登録料(250 ドルまたは 1000 ドル)は、いったん日本陸連が AAA に立て替え払いしますので、後日、主催者に日本円で請求させていただきます。

1. 大会(レース)名の(日本語表記と英語表記)
2. 開催都市
3. 開催日
4. 競技場名(日本語表記と英語表記)
5. IAAF 認証の有無 ※有る場合は証書を添付。無い場合は IAAF 認証申請手続きをすること
7. 組織委員会(主催者)の名称と住所、電話、ファックス、email 及び、担当者名と連絡先(日本語と英語)
8. 2019 年大会で招待状を送付した国名一覧
9. 実施種目
10. 競技注意事項の抜粋(日本語と英語)※別紙にて

申請にあたっての条件及び質問は、本連盟担当までお願いいたします。

以 上

【お問い合わせ先】

日本陸上競技連盟 事務局 国際担当

関幸生 seki@jaaf.or.jp

山田真理子 yamada@jaaf.or.jp

電話:050-1746-8410

資料4 競技規則からみた三段跳の試技時間—1961年から2019年までの推移—

本稿は、資料1：＜4＞資料収集(内容)(4)(7)に関する追加資料である(2020-2-14メールの加筆修正版)。

＜動機・きっかけ＞

実学対抗戦(2019年)の男子三段跳決勝結果(リザルト)は、事例1(次ページ)で示される。エントリーは6名であったが、1名が欠場したために5名で競技が行われた。

A選手がラウンドBで跳躍し、次のラウンドで跳躍するまでのコンディショニング時間が少し気になった。例えば、A氏の跳躍後、次競技者4名の誰かに「×」または「ー」があると、次ラウンドで自分が跳躍するまでの時間が4分～6分(?)程度になることが推測されたからである。また大先輩から、昔の競技会では試技時間がなかったという話を聞いたことがある。

＜目的・方法など＞

調査目的は、実学対抗戦(第1回:1961年～第59回:2019年)における三段跳の試技時間を、JAAF(日本陸連)の競技規則から明らかにすることにあつた。尚、試技時間の長短については、競技者がいい記録を出すための条件の1つであると一般的に言われている。

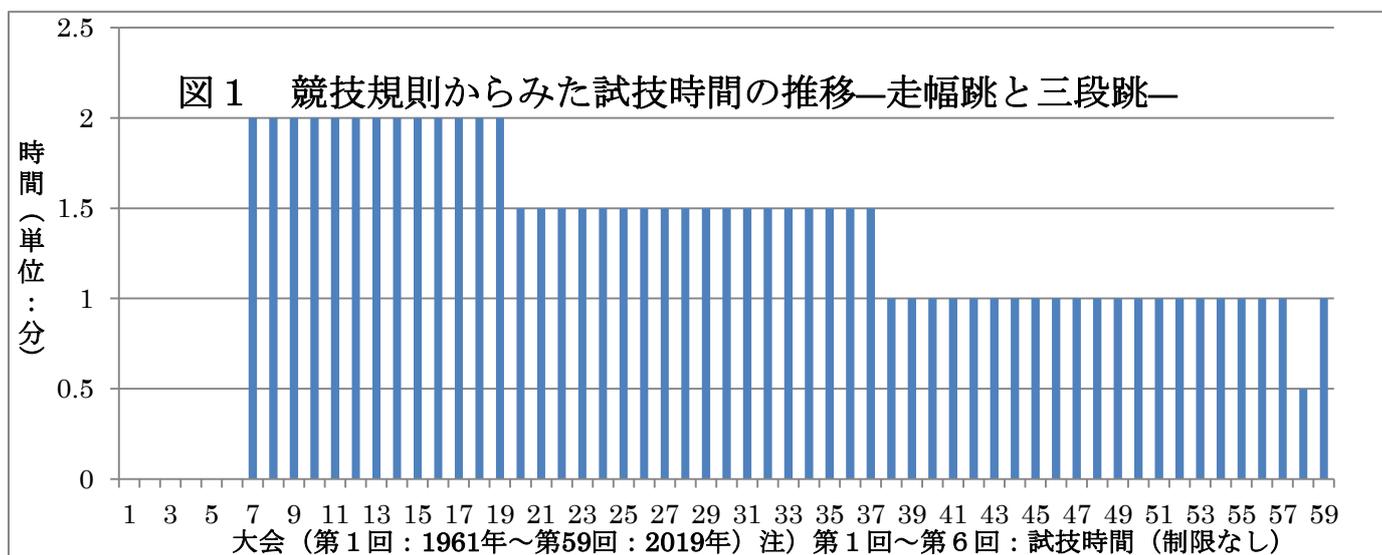
＜結果(概要)＞

図1によると、1961年(第1回大会)の「試技時間」は記載されていなかった。但し「理由なくぐずぐずしている競技者はそれによって失格させられる」旨の記載があつた。以下、試技時間が変化した最初の西暦を示すと、1967年(第7回大会)は2分、1980年(第20回大会)は1分30秒、1998年(第38回大会)は1分、2018年(第58回大会)は30秒、そして2019年(第59回大会)は1分であつた。

この一連の試技時間の推移から、最近の競技者は、昔の競技者に比べて試技時間がより短くなったので、少し厳しい環境下に置かれていると考えられる。

＜今後の課題:示唆される点＞

実学対抗戦主催者は、JAAF競技規則の「試技時間」と選手判断の「パス(—)」については操作できないが、大会の方針や目標、経営資源(人、物、金など)等に問題が無ければ、エントリー数を増やすことが可能であろう。参考までに、三段跳の全開催数は47回、その内試技者8名が2回、7名が7回であつた。現行の6名を、今後7名か8名かにすると、各競技者は時間的・心理的余裕が多少なりとも得られるに違いない。



注) 日本陸連競技規則(1961年～2019年)の試技時間等に関する条項より作成した。

尚、試技時間は通常の数のものであり、連続試技は含まれていない。

＜謝辞＞ 試技時間は、神尾正俊副会長(学生連合)・佐藤良男氏(学生連合:賛助会員)が所有する競技規則本を参考にし、まとめたものである。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

事例 1 実学対抗戦 (2019 年) : 男子三段跳決勝

引用 : 日本学連公式ウェブサイトより : <<https://iuau.jp/ev2019/2019all-star/rel008.html>>

男子 三段跳 決勝

2019 オールスターナイト陸上 The 59th JITA-IUAUJ CLASSIC MATCH
秩父宮賜杯 第 59 回実業団・学生対抗陸上競技大会



2019 年 7 月 27 日 16 時 40 分~17 時 29 分

審判長 : 岡本 克巳

記録主任 : 山崎 正俊

競技場 : Shonan BMW スタジアム平塚

2019/07/29 09:25:37 更新

日本記録 (NR) 17m15 山下 訓史 (日本電気) 1986

大会記録 (GR) 16m82 杉林 孝法 (ミキハウス) 2000.6.25

順位	試順	No.	氏名	所属	記録	コメント	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回
1	5	19	山下 祐樹 ヤマタ ユウキ	実業団 茨城競技力本部	16m15 +2.8		15m83 +2.8	15m20 +1.8	16m15 +2.8	×	×	15m86 +1.4
2	2	121	上坂 樹稀 カミカ イツキ	学 生 国士館大	15m81 +2.7		×	×	15m57 +4.1	15m25 +4.4	13m84 +3.3	15m81 +2.7
3	6	119	竹之内 優汰 タケノチ ユウタ	学 生 順天堂大	15m77 +4.3		15m12 +4.1	15m72 +2.1	15m77 +4.3	15m47 +1.8	15m73 +2.7	×
4	1	21	斎田 将之介 サイタ ショウスケ	実業団 ユメオミライ	15m63 +2.9		15m63 +2.9	×	×	15m61 +4.3	15m29 +2.1	×
5	4	111	泉谷 駿介 イズミヤ シュンスケ	学 生 順天堂大	15m62 +1.6		15m20 +2.7	14m88 +3.7	13m31 +3.0	—	14m79 +2.6	15m62 +1.6
	3	20	山本 凌雅 ヤマモト リョウマ	実業団 JAL		DNS						

- DNS:欠場

資料5 しおり（テーマ、趣旨・演者ら、主催・期日・開催方法等、スケジュール）

プログラム1（報告）：第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）の報告

2019年7月3日（水）～14日（日）にナポリ（イタリア）において第30回ユニバーシアード競技大会が開催されました。安井年文氏（青山学院大学、第30回ユニバーシアード競技大会日本代表選手団監督、学生連合：強化副委員長）が報告します。

プログラム2（フォーラム）：今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―

日本学生陸上競技連合では、日本陸上競技界の発展のため、毎年「指導者会議」の名の下、シンポジウムやフォーラム、講演等を通じて競技者の強化に関するさまざまな課題について考えてきました。

昨年度の第65回（日本学生陸上フォーラム2020）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。そこで、今回のフォーラム2021は、上記会議等の成果も参考としながら、昨年度のフォーラム2020のテーマを再び取り上げて、実業団連合と学生連合が主催する実学対抗戦に焦点を置きます。本フォーラムの目的は、今後の実学対抗戦のあり方を考えるために、現状の世界陸連ワールド・ランキング制度や中長期的な視点に立ったアジアパーミット大会の開催も視野に入れながら、実学対抗戦（第1回～第59回）の検証を行って今後の課題を明らかにすることにあります。この時、現状のコロナ禍における競技関係者の安全・安心の確保を図った競技者強化や競技会運営のあり方についても併せて意見交換をしていきたい。各演者には検証の視点（注1）と資料（注2）を参考にして発言してもらいます。また進行についてはフロアも含めて活発な意見交換の場になるよう努めます。

注1）検証の視点：実学対抗戦（第1回～第59回）の歩みや特徴など。注）第60回（2020年）は中止であった。

注2）資料：実学対抗戦の歩み（概要）、世界陸連ワールド・ランキング制度（IAAFポイント・ランキング制度）、アジアパーミット大会など。

酒井勝充 氏（コニカミノルタ陸上競技部副部長、実業団連合：強化委員長）

栗山佳也 氏（大阪体育大学、学生連合：常務理事・強化委員長）

関根春幸 氏（学生連合：常務理事・競技委員長）

コーディネーター 船原勝英氏（元共同通信スポーツ企画室長、学生連合：倫理委員長・指導者会議運営委員）

司 会 障子恵 氏（跡見学園女子大学、学生連合：総務委員長・指導者会議運営委員）

- 主 催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
- 日 時 2021年（令和3年）3月6日（土）（理事会終了後）
- 開催方法 オンライン形式（Zoomによる開催）（接続方法は後日連絡いたします）
- 対 象 実業団連合関係者、学生連合（理事会関係者、強化委員会・競技委員会関係者）

スケジュール（予定）

- 15:15 進行等について（司会）
- 15:20 開会挨拶 松本正之 氏（会長）
提案趣旨 阿保雅行 氏（指導者会議運営委員長）
- 15:30～15:50 プログラム1（報告） 「第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ）」
- 16:00～17:30 プログラム2（フォーラム） 「今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―」
- 17:30 まとめ 阿保雅行（同上）
閉会挨拶 永井 純（専務理事）
- 17:40 終了

資料6 第66回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2021）開催要項

プログラム1（報告）：第30回ユニバーシアード競技大会（2019/ナポリ）の報告

2019年7月3日（水）～14日（日）にナポリ（イタリア）において第30回ユニバーシアード競技大会が開催されました。安井年文氏（下記参照）が報告します。

プログラム2（フォーラム）：今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―

日本学生陸上競技連合では、日本陸上競技界の発展のため、毎年「指導者会議」の名の下、シンポジウムやフォーラム、講演等を通じて競技者の強化に関するさまざまな課題について考えてきました。

過去4回の指導者会議のテーマ等は次の通りでした。1) 第61回：日本実業団陸上競技連合（実業団連合）と日本学生陸上競技連合（学生連合）学連の相互協力をキーワードとして学生アスリートの就職支援や就職後の練習環境支援に関するテーマ。2) 第62回：リオ代表らと語ろう―学生アスリートを東京2020へ―（「大きな舞台に出場して見えてきたもの」「学生時代にやっておくべきことは何か」）。3) 第63回：ユニバーシアード競技大会台北2017の検証と今後の課題。4) 第64回：個人選手権大会のあり方を考える―検証と課題―。

昨年度の第65回（日本学生陸上フォーラム2020）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。（参照：学生連合 Website <<https://iuau.jp/iinkai/sidousya/65kaisaichushi.pdf>>2020年2月27日）

そこで、今回のフォーラム2021は、上記会議等の成果も参考としながら、昨年度のフォーラム2020のテーマを再び取り上げて、実業団連合と学生連合が主催する実学対抗戦に焦点を置きます。本フォーラムの目的は、今後の実学対抗戦のあり方を考えるために、現状の世界陸連ワールド・ランキング制度や中長期的な視点に立ったアジアパーミット大会の開催も視野に入れながら、実学対抗戦（第1回～第59回）の検証を行って今後の課題を明らかにすることにあります。この時、現状のコロナ禍における競技関係者の安全・安心の確保を図った競技者強化や競技会運営のあり方についても併せて意見交換をしていきたい。各演者には検証の視点（注1）と資料（注2）を参考にして発言してもらいます。また進行についてはフロアも含めて活発な意見交換の場になるように努めます。

注1) 検証の視点：実学対抗戦（第1回～第59回）の歩みや特徴など。注) 第60回（2020年）は中止であった。

（参照：学連 Website <https://iuau.jp/ev2020/2020all-star/2020all-star_chushi.pdf>2020年5月14日）

注2) 資料：実学対抗戦の歩み（概要）、世界陸連ワールド・ランキング制度（IAAFポイント・ランキング制度）、アジアパーミット大会など。

記

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために理事会が対面会議からリモート会議に変更になりましたので、フォーラム2021もリモートで開催することになりました（2021年1月18日）。

- 主 催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
- 日 時 2021年（令和3年）3月6日（土）（理事会終了後）
 - 15:15～15:20 進行等について（司会）
 - 15:20～15:30 開会挨拶（会長）、提案趣旨（委員長）
 - 15:30～15:50 プログラム1（報告）
 - 16:00～17:30 プログラム2（フォーラム）
 - 17:30～17:40 まとめ（委員長）、開会挨拶（専務理事）
- 開催方法 オンライン形式（Zoomによる開催）（接続方法は後日連絡いたします）
- 対 象 実業団連合関係者、学生連合（理事会関係者、強化委員会・競技委員会関係者）
- 司 会 障子恵氏（跡見学園女子大学、学生連合：総務委員長・指導者会議運営委員）
- コーディネーター 船原勝英氏（元共同通信スポーツ企画室長、学生連合：倫理委員長・指導者会議運営委員）
- 演者（順不同）
 - プログラム1 安井年文氏（青山学院大学、第30回ユニバーシアード競技大会日本代表選手団監督、学生連合：強化副委員長）
 - プログラム2 酒井勝充氏（コニカミノルタ陸上競技部副部長、実業団連合：強化委員長）
 - 栗山佳也氏（大阪体育大学、学生連合：常務理事・強化委員長）
 - 関根春幸氏（学生連合：常務理事・競技委員長）

以上

資料7 令和元年度（2019年度）・令和2年度（2020年度）指導者会議運営委員会（敬称略）

指導者会議運営委員会委員長	(2019年度・2020年度)	阿保 雅行
委員	(2019年度・ —)	石井 朗生
委員	(2019年度・2020年度)	障子 恵
委員	(2019年度・2020年度)	永井 立子
委員	(2019年度・2020年度)	船原 勝英
委員	(— ・2020年度)	滝川 哲也

オブザーバー	学生幹事長	(2019年)	宮崎 芽衣
	学生常任幹事	(2019年)	黒井 文香
	学生幹事長	(2020年)	二見 百香
	学生幹事長	(2021年)	古屋敷律希
	学生副幹事長	(2021年)	公文こころ
	学生副幹事長	(2021年)	渡邊 稜太
	事務局長		大西 清司
	事務局員		朝比奈由布子

注1) 指導者会議運営委員会；平成28年度 新規設立

注2) 第65回指導者会議（フォーラム2020）は新型コロナウイルス感染症対策のために中止となり、第66回指導者会議（フォーラム2021）は前年度のテーマを再度取り上げて行った。委員会等の構成員は年度によって多少の違いがあったので、単年度 と両年度の区分けをして委員らの氏名を記載した。

資料8 令和元年度・令和2年度 指導者会議運営委員会及び実学打ち合わせ（開催報告）

月 日	委員会／実学打ち合わせ	場 所
(令和元年：2019年)		
4月10日（木）	第1回指導者会議運営委員会	日本学連事務所
5月12日（日）	第1回実学対抗戦打ち合わせ	カフェ&バー：プロンプト(新横浜駅)
6月18日（火）	第2回指導者会議運営委員会	日本学連事務所
7月11日（木）	第2回実学対抗戦打ち合わせ	実業団連合事務局
7月29日（土）	第3回実学対抗戦打ち合わせ	Shonan BMW スタジウム平塚・会議室
11月12日（月）	第3回指導者会議運営委員会	日本学連事務所（実業団連合2名出席）
(令和2年：2020年)		
2月18日（火）	第4回指導者会議運営委員会	日本学連事務所
(令和3年：2021年)		
開催なし	(注：新型コロナウイルス感染症対策のために、メール・電話による情報交換を行った)	

注1) 本報告書（資料編）においては、一般社団法人日本実業団陸上競技連合は「実業団連合」と、公益社団法人日本学生陸上競技連合は「学生連合」と略す。

資料9 令和元年度・令和2年度 演者とコーディネーターらの打ち合わせ（敬称略）

（令和2年：2020年）

2月18日（火）打ち合わせ（午後6時～7時30分、日本学連事務所）

演者：実業団連合（酒井勝充）、学生連合（栗山芳也、関根春幸）

コーディネーター：船原勝英、司会者：障子恵

関係者：実業団連合（鈴木公）、学生連合（永井立子、阿保雅行、オブザーバー：学生連合（大西清司局長、古屋敷律希副幹事長）

（令和3年：2021年）

3月1日（月）打ち合わせ（午後4時30分～午後6時）、Zoom ミーティング

演者：実業団連合（酒井勝充）、学生連合（栗山佳也、関根春幸）

コーディネーター：船原勝英

関係者：実業団連合（鈴木公）、学生連合（古屋敷律希幹事長、公文こころ副幹事長、永井立子、滝川哲也、阿保雅行）

注）船原コーディネーターは、打ち合わせの諸情報も参考にしてフォーラム2021の進行プログラムを作成した。

《謝辞》

フォーラム2020／フォーラム2021の企画・計画・運営等を実施していく過程において、次の方々から貴重なご意見やご助言、ヒントなどを戴きました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

1. 3回の実学打ち合わせ（とりわけ実業団連合の方々）：2019年度

第1回：会長：西川晃一郎様、専務理事：友永義治様、強化委員長：酒井勝充様、事業戦略企画委員会：鈴木公様

第2回：事務局長：阿相久志様、部長：新城薫様、事業戦略企画委員会：鈴木公様

第3回：会長：西川晃一郎様、総務委員長・理事：山地繁信様、部長：新城薫様、事業戦略企画委員会：鈴木公様

2. 第3回指導者会議運営委員会への出席者（とりわけ実業団連合の方々）：2019年度

実業団連合：阿相久志事務局長、鈴木公様

3. 学生連合の会長、副会長、専務理事、学連関係者：2019年度及び2020年度

松本会長（社員総会における挨拶内容：資料2）、永井専務理事（実学対抗戦に関する意見・要望：資料2）、神尾副会長・佐藤良男賛助会員（走幅跳&三段跳等に関する試技時間：60年以上の競技規則本の提供：資料4）、プログラムⅠの安井氏（報告に用いるパワーポイント資料の作成と提供）、プログラムⅡの演者（栗山氏、関根氏：配布資料の構成や内容などに関する助言やヒント）、船原コーディネーター（フォーラム進行プログラムなどの作成）、実学打ち合わせ等にご出席された委員（資料7参照）の方々、学連関係者（競技者の様子、競技会のあり方などに関する助言やヒント）、学生幹事ら（フォーラム2020に関する諸情報の提供や発信、会場準備に伴う諸作業。フォーラム2021に関わるzoomミーティングの準備と実際など）、そして事務局関係者。

.....
令和2年度 第66回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2021）報告書

発行日 2021年（令和3年）3月31日
発行人 松本正之
編集人 永井 純
発行所 公益社団法人日本陸上競技連合
〒151-0053
東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル
電話 03-5304-5542
.....